

目次

もくじ
ふね 船のトイレ物語
ものがたり

タイトル 船のトイレ物語			
「目次」船のトイレ物語			
(44) 大森海苔舟のトイレ事情	P44	(59) 東京湾のトイレ規制「新屋形船」	P59
(45) 隅田川屋形船のトイレ事情(1)	P45	(60) 旧日本海軍戦艦のトイレ事情(1)	P60
(46) 隅田川屋形船のトイレ事情(2)	P46	(61) 旧日本海軍の戦艦トイレ事情(2)	P61
(47) 第一次ペリー艦隊来航(1)	P47	(62) 旧日本「伊号35潜水艦のトイレ」	P62
(48) 第一次ペリー艦隊編成(2)	P48	(63) 戦艦「三笠」のトイレ事情(1)	P63
(49) ペリー艦隊旗艦「サスケハナ」(3)	P49	(64) 戦艦「三笠」のトイレ事情(2)	P64
(50) 「サスケハナ」艦内居住環境図(4)	P50	(65) 戦艦「三笠」のトイレ事情(3)	P65
(51) 幕末の日本最初の軍艦 咸臨丸	P51	(66) 日本の代表的な連絡船(1)	P66
(52) 遣米使節「航米日録」(1)	P52	(67) 国鉄連絡船屎尿処理経過(2)	P67
(53) 遣米使節「航米日録」(2)	P53	(68) 国鉄連絡船のトイレ配置(3)	P68
(54) 遣米使節「航米日録」(3)	P54	(69) 海上保安庁船舶のトイレ	P69
(55) 遣米使節「航米日録」(4)	P55	(70) 海上保安庁270トン巡視艇	P70
(56) 朝鮮通信使の船のトイレ事情	P56	(71) 不審船(工作船)のトイレ	P71
(57) 17世紀のヨーロッパの軍艦(1)	P57	(72) 海上自衛隊艦船(1)	P72
(58) 17世紀のヨーロッパの軍艦(2)	P58	(73) 海上自衛隊砕氷艦「しらせ」	P73
		(74) 海上自衛隊呉資料館(1)	P74
		(75) 海上自衛隊呉資料館(2)	P75
		(76) 海上自衛隊呉資料館(3)	P76
		(77) 豪華客船「氷川丸」のトイレ(1)	P77
		(78) 豪華客船「氷川丸」のトイレ(2)	P78
		(79) 豪華客船「氷川丸」のトイレ(3)	P79
		(80) 豪華客船「氷川丸」のトイレ(4)	P80
		(81) おわりに	P81

おおもりのり ふね じじょう
(44) 大森海苔舟のトイレ事情

しょうわ ねんだい おおたく おおもりおき のりぶね じつわ

のり たねつけ さぎょう 昭和三十年代の大田区大森沖の海苔舟実話
海苔の種付け作業

ふね
ベカ舟



しょうわ ねんだい とうきょうわん おおもりおき のり のり ようしょく あみ あいだ くらい てんてん
昭和三十年代、東京湾大森沖の海苔ひびとは海苔を養殖する網です。間にひしめく黒い点々は
しゅうかく むすう ぶね とうきょうわん もっと ふる れきし ほこ おおたく おおもりのり ぎょじょう さい
それを収穫する無数のベカ舟です。東京湾で最も古い歴史を誇る大田区の大森海苔漁場が「最
ご つ と お しょうわ ねんはる とうじ のり りょう かいすい
後の摘み取り」を終えたのが昭和三十八年春でした。当時の海苔漁は、海水がにごりはじめて
げんかい のり なつ はじ おとこしゅうのりば つく ご おんなしゅう あ あみ ち
もう限界だった。海苔づくりは夏から始まり、男衆は海苔場作り、その後女衆が編んだ網を干
ば ば はこ つ おんな こま ふね おんな
葉のタネ場に運んでタネ付けする、女はなんでもやったが「困ったのは船に **トイレ**がなくて女
にはきつかった。「平成19年(2007)東京新聞」記事

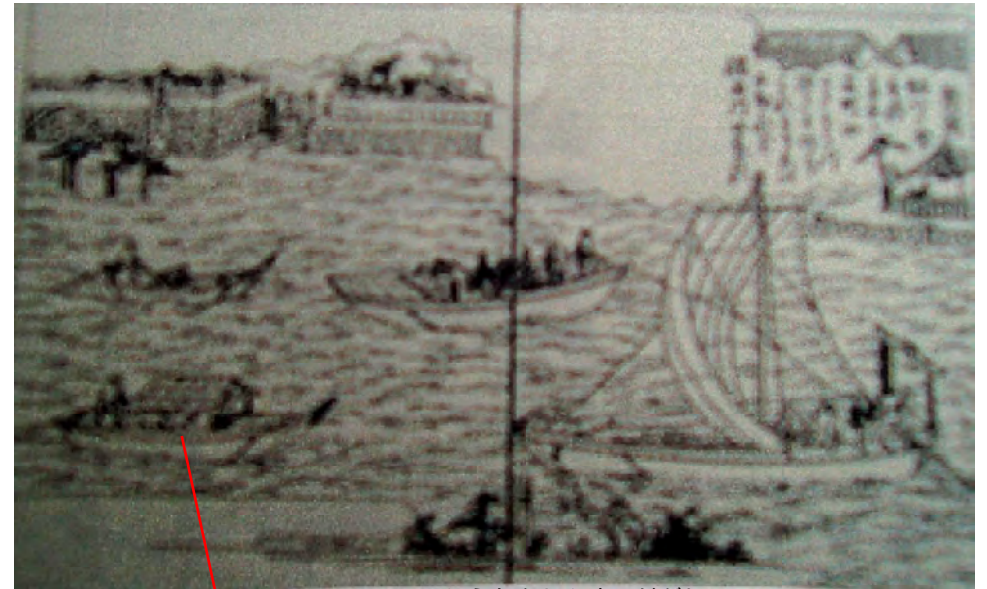
(45) 隅田川の屋形船、トイレ事情(1)

江戸時代の大河(隅田川)には遊びの船「屋形船」がありました。この船は、納涼、観月、潮干狩りなどに使われ、ユーザーは大名、旗本、豪商、などにレンタルされていました。船内は六畳位の畳数を船べりにそって幾つも造り、内装の間仕切りは襖を立て、最後の一室は共同台所として各室毎に貸しました。船首と船尾は引き戸で、船縁側(船の側面)は幔幕、スタレ、以外の物は幕府から禁止されていました。武家の持船と町場の船とは飾りで見分けられるようにしてありました。このころの男女の色っぽい出会いに船を使う場合は船頭に別に酒手注1を渡して、しばらく船を舫って注2もらいました。

しかし便所の事はまったくできませんが、屋形船には便所はありませんので、男性は船べりで直接放尿、女性は我慢しても我慢できない時には、右図の、一般に使用する「おまる」を使用したのではないのでしょうか。



じょせいよう
女性用おまる



やかたふね
屋形船

ほうれきねんすみだがわ
宝暦10年隅田川

(4 6) 隅田川屋形船のトイレ事情 (2)

屋形船は室数の多さが競争になり、大川（隅田川）一番の大船は「川一丸」で座敷の数が八間に台所一間「山一丸」と次々に大きな船が出現しました。長さは九メートルから十五メートルさらに二十五メートルまでありました。幕府は度々制限令をだし、元禄十四年（1701）制限以上の船を取り上げ、宝永三年（1706）船数百艘まで、当時屋形船の使用料が五両でした。江戸時代隅田川の夕涼み船は五月二十八日から三カ月許され、初日は川開きで花火大会が開かれました。勿論この屋形船にも便所はなかったようです。

屋形船の夏遊び



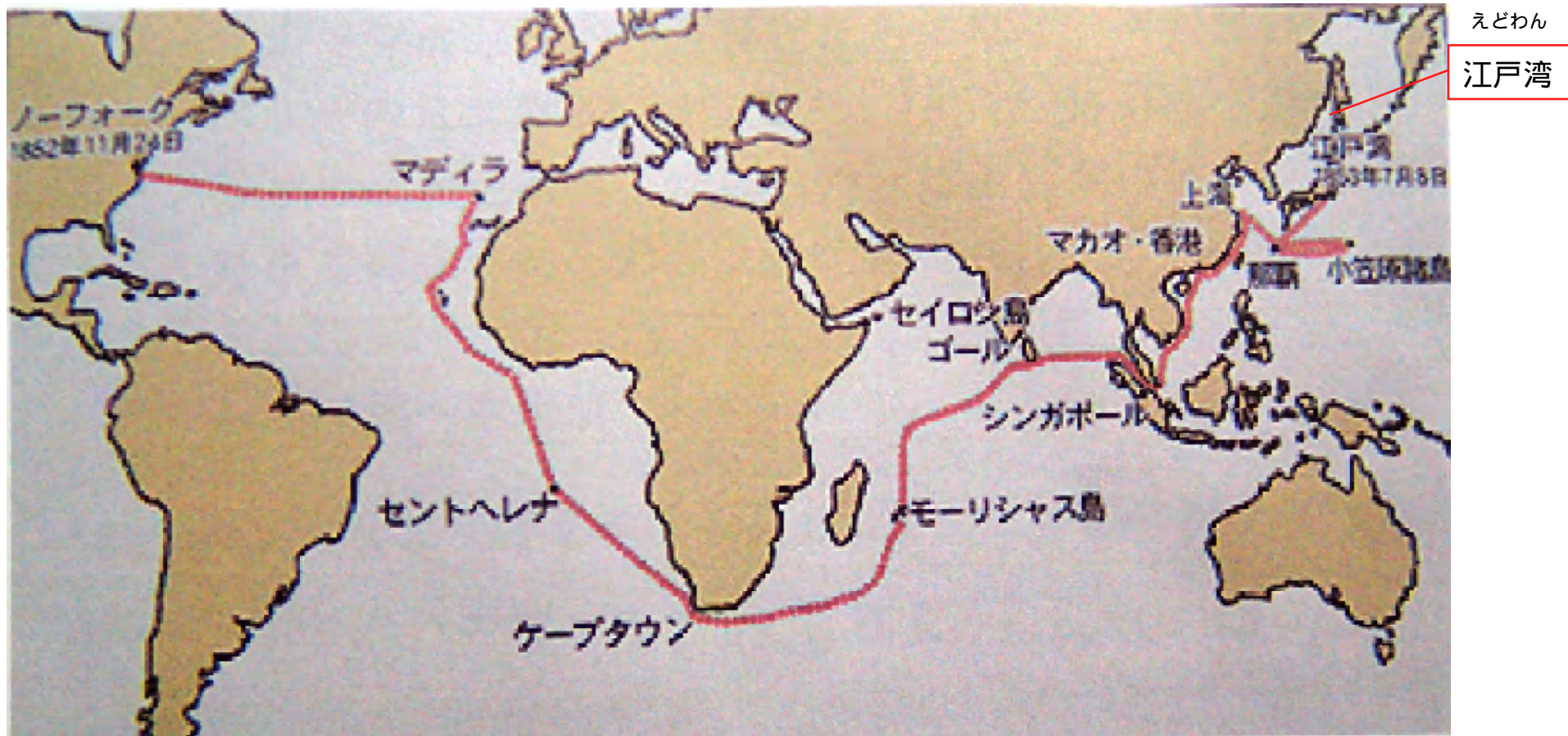
参考文献：役者夏の富士

屋形船は屋根の上から船頭が四～五人で棹を使って船を進め、船内は全部客間であるため、屋根の上から棹を使った。大名が屋形船を使う場合屋根に船頭がいると無礼であることから、屋根裏に「蟲」の字が書かれました。

(47) 第一次ペリー艦隊来航 (1)

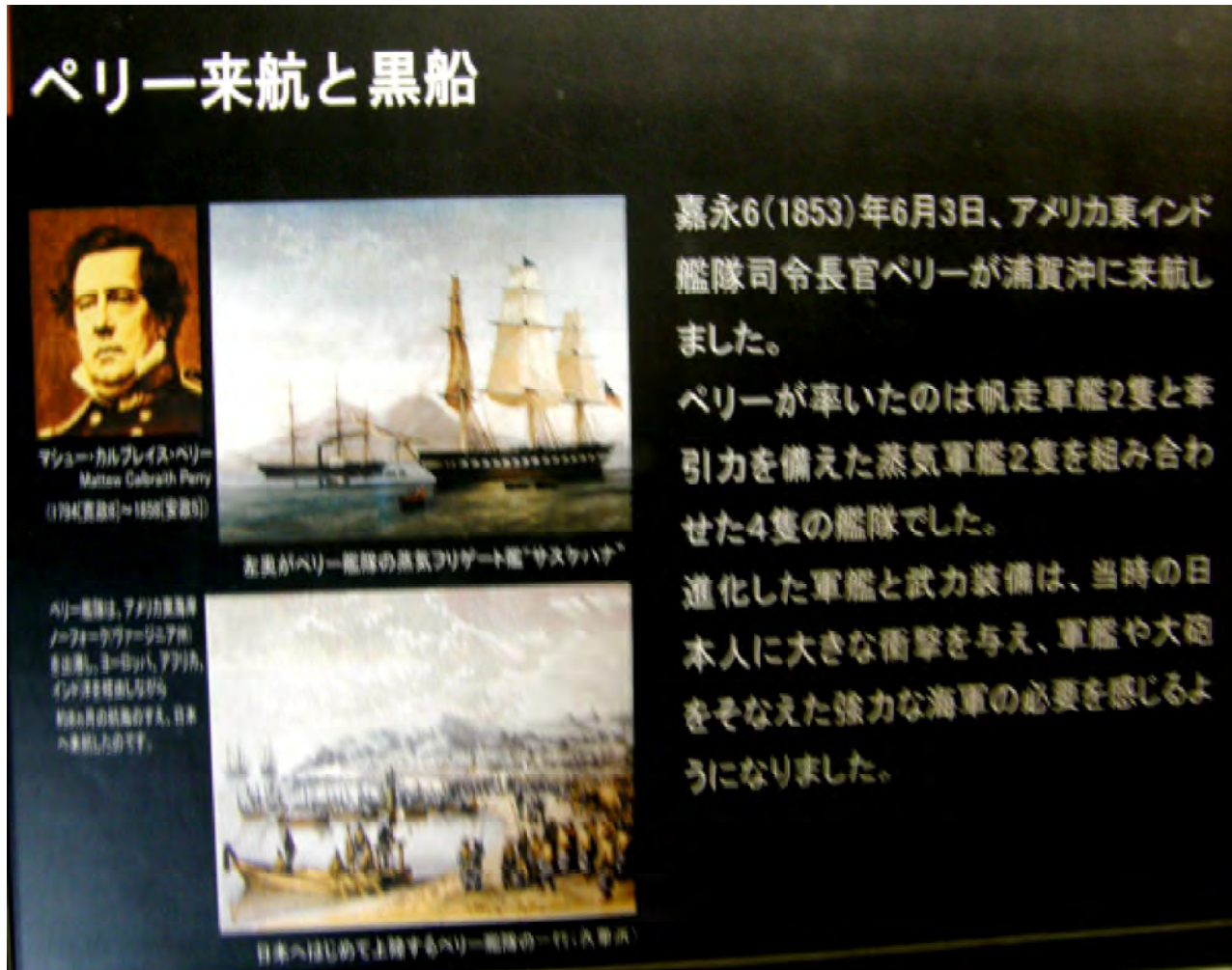
嘉永6年6月3日 (1853年7月8日) の夕刻、米国東インド艦隊司令長官ペリー (M.C.Perry) の率いる四隻の艦隊が浦賀に投錨しました。艦隊は、蒸気船のサスケハナ、ミシシッピ、帆装スloopのサラトガとプリマスの四隻で、江戸湾に易々と侵入し黒船を見た当時の日本人は大変な衝撃を受けました。ペリーは日本に「開国と通商」を求め、アメリカ大統領「フィルモア」の国書を手渡し、承諾の返事を貰うために来航しました。

ミシシッピの航路図 (船の科学館)



(4 8) 第一次ペリー艦隊編成 (2)

3月25日シンガポール入港、香港、上海、那覇に到着し、日本との交渉の準備と遠征隊を編成し、「サスケハナ」を旗艦としました。
蒸気フリゲート「サスケハナ」艦暦 1850年（嘉永3年）12月24日アメリカのフィラ



デルフィア海軍工廠で完成しました。完成後直に東インド艦隊に配属され、ペリーの日本遠征に参加し、1861~65年南北戦争では北軍所属の軍艦として、活躍して1868年（明治元年）軍艦籍から除外、1883年売却、解体されました。
主要寸法 長さ250フィート（76.2m）全幅45フィート（13.72m）深さ26.5フィート（8.08m）

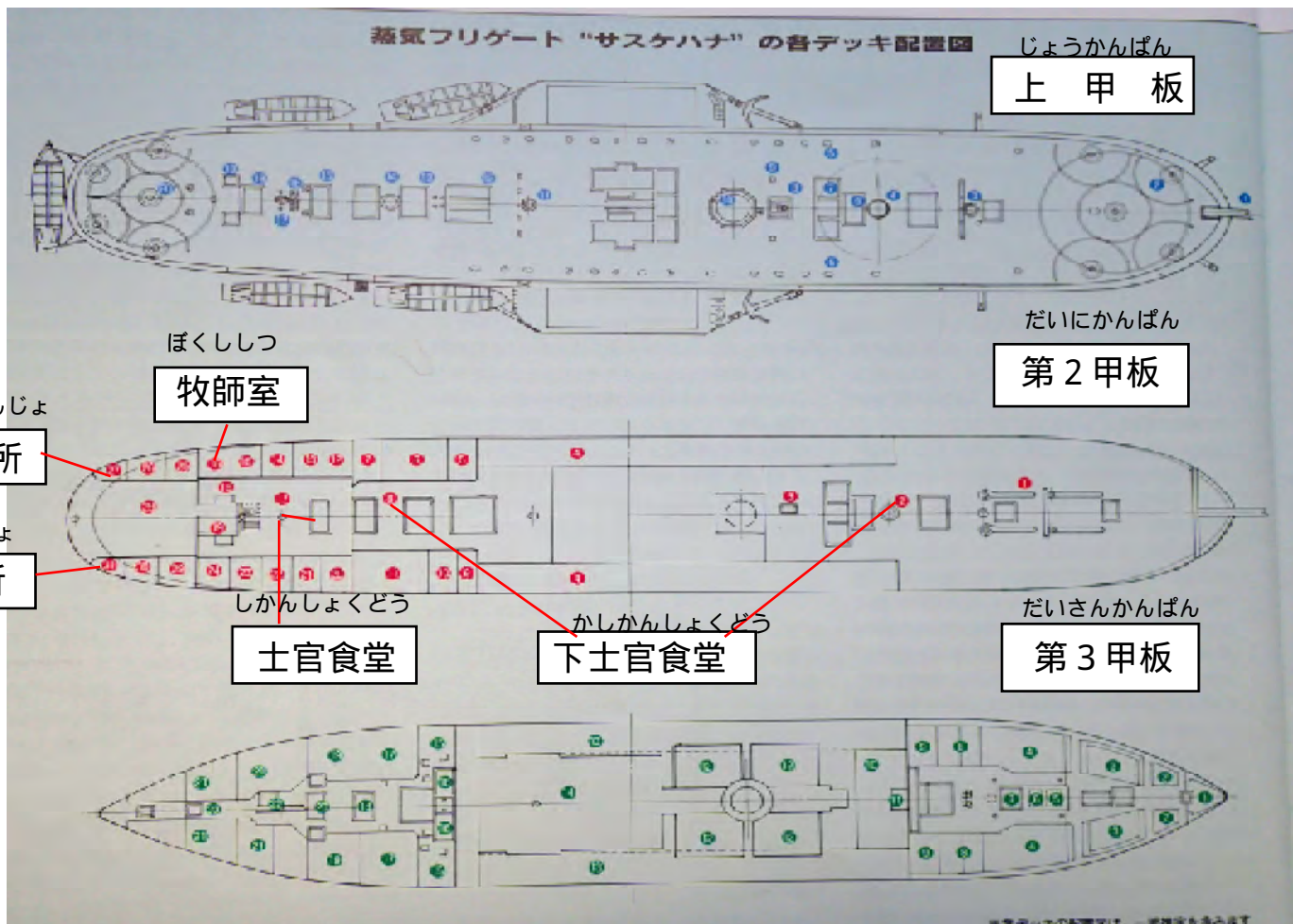
(4 9) ペリー艦隊旗艦「サスケハナ」(3)

サスケハナはアメリカ海軍最大の蒸気軍艦で、日本遠征に参加後は地中海艦隊に配属され、南北戦争終了後、スクリュー推進艦に改造する工事にとり懸りました。

蒸気フリゲート サスケハナ配置 平面図



「サスケハナ」の図

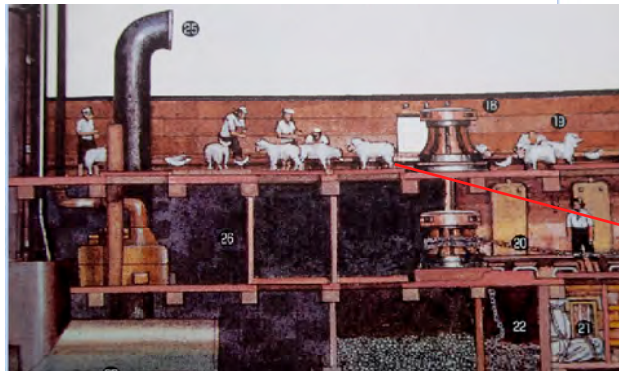
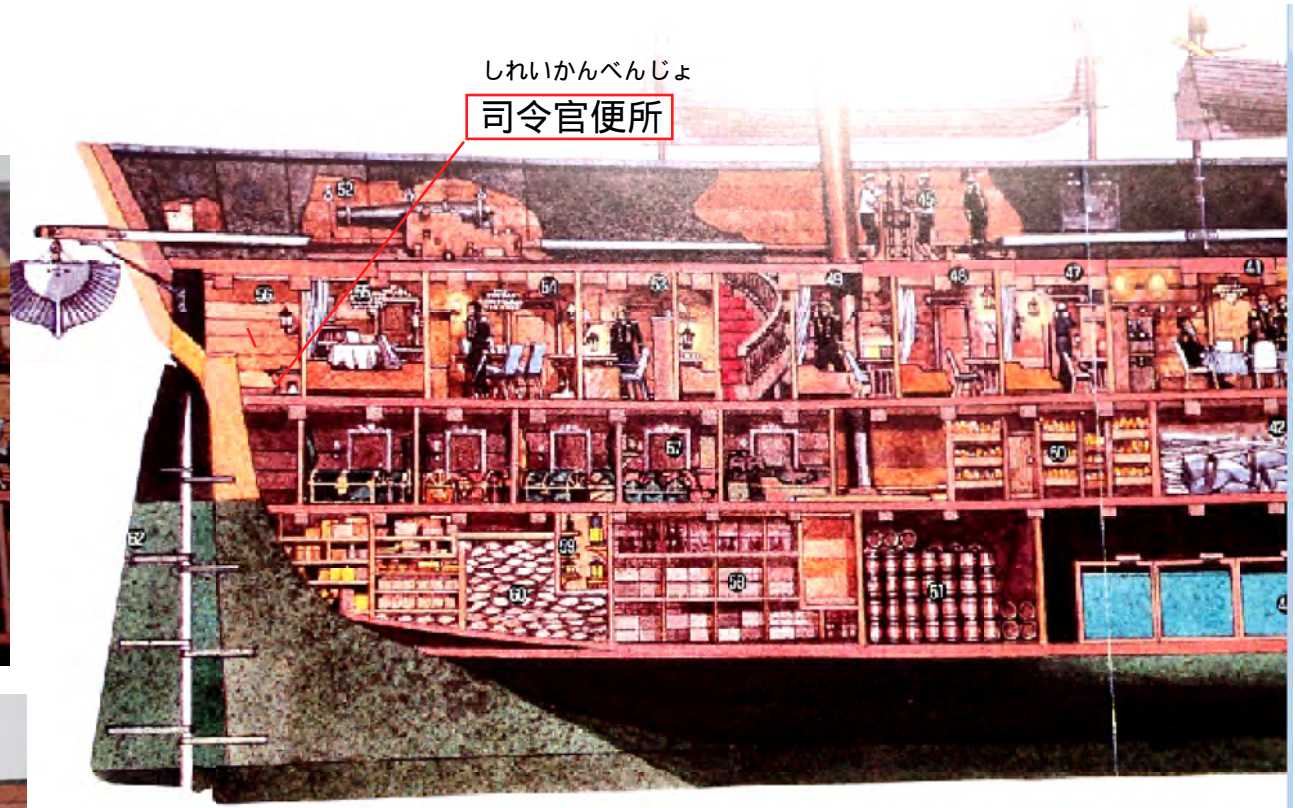
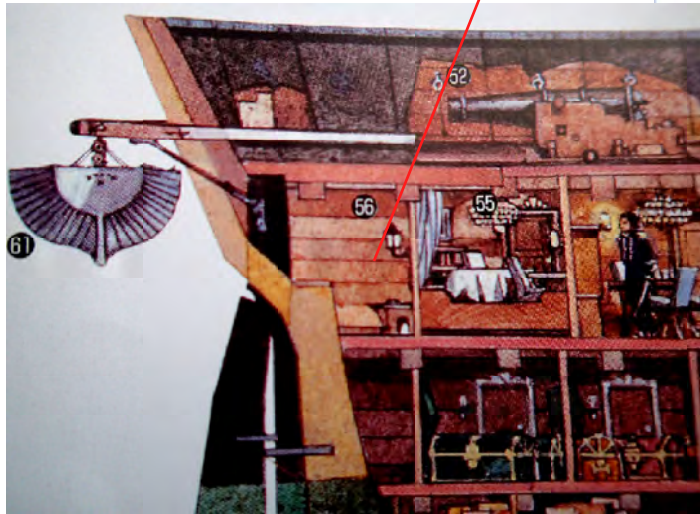


(50) 「サスケハナ」艦内居住環境図 (4)

じょうかんぱんした だい そう きょじゅうかく ぶんかつはいち へいめんず うげん せんび しれいかん べんじょ
 上甲板下の第一層は居住区画で、分割配置平面図右舷船尾に司令官の便所が (49)
 はいち へいめんず さげん かんちょう べんじょ ほかのりくみいん かいへいたい べんじょ あらわ
 の配置平面図の左舷には艦長の便所があるが、その他乗組員・海兵隊などの便所は表
 されていない。やく にん のりくみいん どう いかん かいへいたい しかん しゅけいかん ぐんい ぼく
 約300人の乗組員や、1～4等尉官、海兵隊士官、主計官、軍医、牧
 し など へや
 師、等の部屋はあります。

司令官便器

司令官便所



艦内で食用にする小動物が飼育されていた

(51) 幕末の日本最初の軍艦 威臨丸

幕府は江戸湾の防備は近代的な軍艦を整備しなければならない事を痛感し
 安政四年(1857)八月五日に長崎の出島沖に投錨し日本側に引き渡され、艦
 名を「威臨丸」とし伝習所の練習艦になりました。
 艦はオランダで建造された船でトイレは洋式で屎尿処理は直接海中に排出しました。



べんじょかくたいず

便所拡大図

さげんべんじょおぶつ せんがいほうりゅうかん

左舷便所と汚物の船外放流管

しにょう ほうりゅう かん

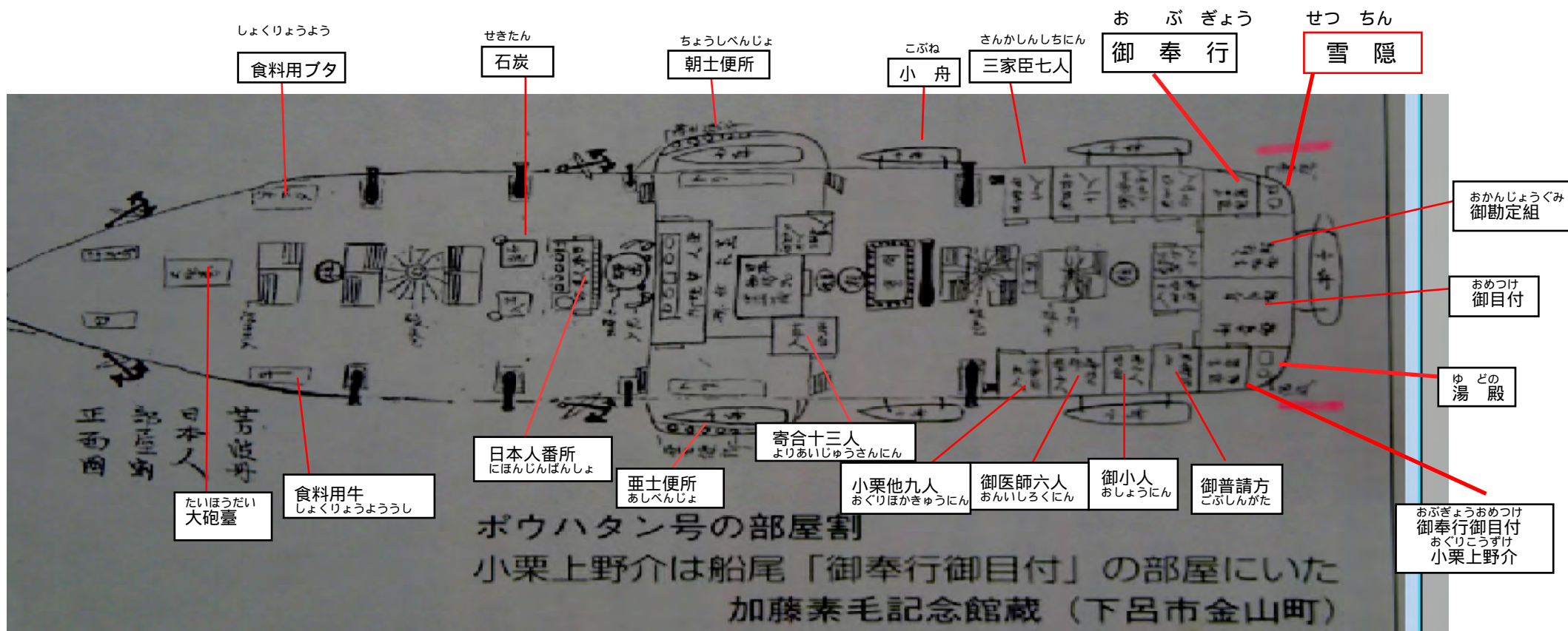
屎尿を放流する管

けんべいしせつ こう べい にちろく
 (5 2) 遣米使節「航米日録」(1)

あんせい ねん ていけつ にちべいつうしょうこうかい しゅうこうつうしょう じょうやく ひじゅんしょ
 安政五年(1858)に締結された日米通商航海(修好通商)条約の批准書
 こうかん まんえんがんねん がつ にちせいし にいみ まさおき がいこくぶぎょう そうけい
 交換のために、万延元年一月十八日正使 新見正興(外国奉行)ほか総計七
 にん ようい ごう こうかい きろく こうべい にちろくちょ
 十七人がアメリカの用意した「ポウハタン号」で航海した記録「航米日録著
 しゃたまむしさだゆう ふね じじょう
 者玉蟲左太夫」の船のトイレ事情です。



こうにほんじんへやわり ず
 「ポウハタン号日本人部屋割り図」



参考文献：月刊・本の街 8月号N03 1 0

玉蟲左太夫航米日録」を読む 東北大学出版会

加藤素毛記念館蔵

けんべいしせつ こうべい にちろく
(5 3) 遣米使節「航米日録」(2)

「ポウハタン」はペリーが第二回目に来航した時の旗艦で、「ポウハタン号」の概略を見ると。長さ七十五メートル、幅十三・五七メートル甲板の下の深さ五・三六メートルで四層になっていて、第一層は倉庫、第二層は倉庫並びに士官の部屋、第三層の船尾が提督の部屋、第四層は船具の保存場所であり、お手洗いなどがある。右方のお手洗いは第一上官用、左方は第二上官用、従者は船首のお手洗いを使用する。ただし船首にあるお手洗いは、遮蔽がなく、風雨の際には波が飛び込んでくるので、航海が初めての者には近づくことができない、やむを得ず左方を使用することにした。

せんちゅう おん せい きん がき
○ 船中御制禁書

- だい せんしょうへや の そと ふね ちゅだん たばこ ゆる
第一 船将部屋之外、船の中段にて煙草を許さず
- だい せんしょうへや そと よる じ かぎ とうみょう け
第三 船将部屋の外、夜四時限り二燈明を消すべし、
- だい ほうぶんしょ よる じ しま にほんじん だいどころ じ まえ ひ け
第四 烹焚所八夜五時二仕舞へし、日本人台所八五時前二火を消すべし、
- だい ほうぶん ようすい みずおきしょ たる おいて ひとり まえおよそにしょう わり もってあた
第五 烹焚の用水八水置所より樽二而、一人前凡二升の割を以与ふへし、
- だい ざけるい せんちゅうものとも あたえ もち さ よう
第六 酒類八船中者之共（彼ノ方水夫を云）に与ふへからず、持ち去られざる様二すへし、
- だい へや ない ひ
第八 部屋内二火をゆるさす、
- だい みぎ べんじょ だい とうの やくにん ひだりのほうべんじょ だい とう やくにん おいて じゅうしゃ ふねおもてがた
第十 右の便所八第一等之役人、左之方便所八第二等の役人二而、従者八船表之方を用へし、
- だい やくにんの ほか せんちゅうしかんの へやべや え ゆる
第十一 役人之外、船中士官之部屋々々江くるを許さす、

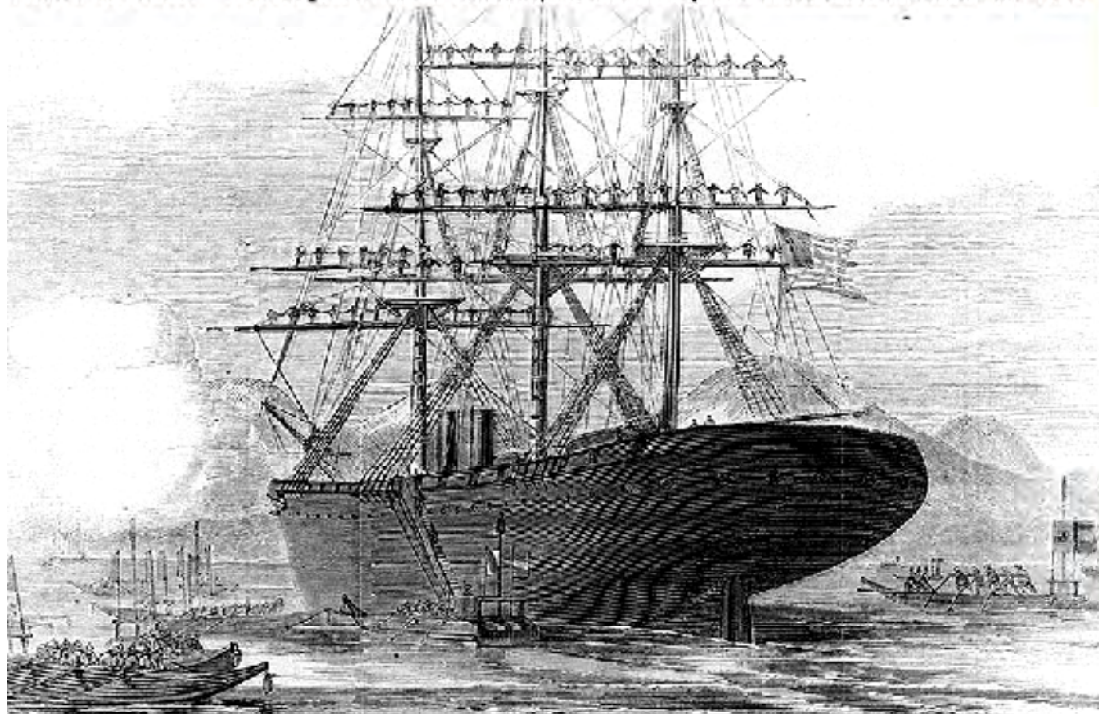


けんべいしせつ こうべい もくろく
(5 4) 遣米使節「航米日録」

(3)

しせつだん せいふ かいぐんいんかい だいひょう しせつだん せわやく たいさ
使節団がナイアガラ号に乗船すると、ここまで付き添ってきたジュポン大佐が
政府の海軍委員会を代表して、使節団の世話役を、ナイアガラ号のマッキー
せんちょう いじょう にほんじん せんしつ だいごそう へさき ほう さんし へや へ
船長に移譲しました。日本人の船室は第五層の舳の方にあり、三使の部屋は舳
さき せんたん よくしつ せんちゅう つか こと げんきん
先の先端にトイレがあり、浴室までついている。船中マッチを使う事は、厳禁。
じゅうしゃ しき こま じょうし のぞ じゅうしゃ とも
従者たちはアメリカ式トイレに困ってしまった。上司を除く従者のトイレは艦
はし あな あ すうにん なら こし か しかけ ここ
の端にあり、穴の開いているところに数人が並んで腰を掛ける仕掛けだが個々
しきり かこ すいへい す となり だんしょう よう
の仕切りや囲いはないから水兵たちは、たばこを吸い、隣と談笑しながら用を

Photo # NH 59571 USS Niagara arrives at Yeddo, Japan, with the Japanese Ambassador on board, Nov. 1860



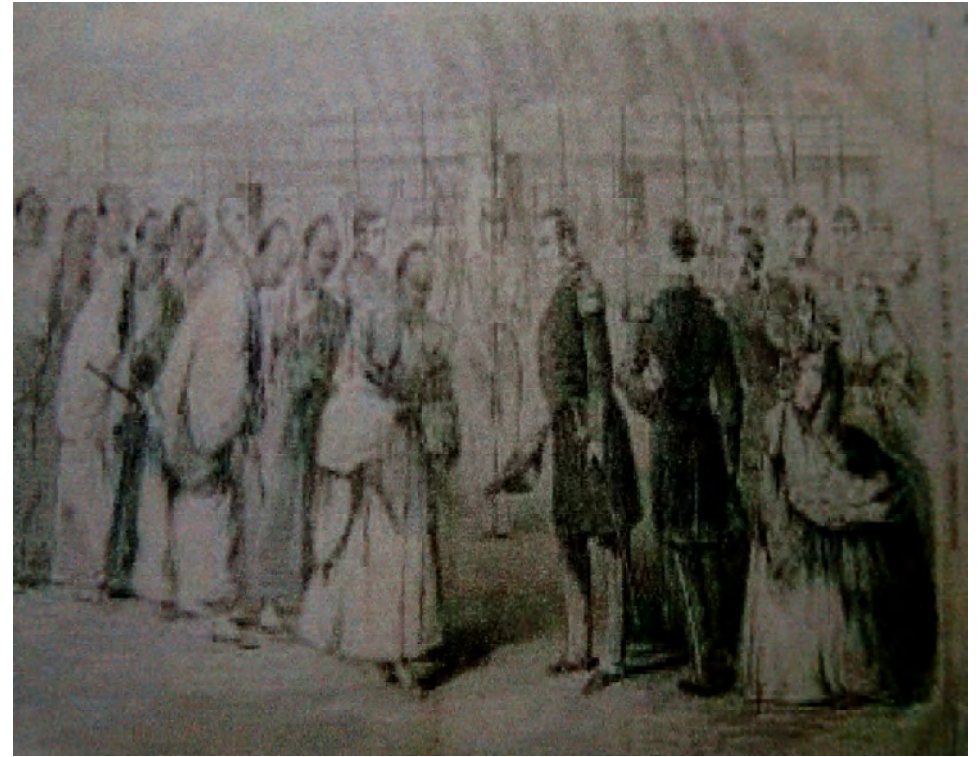
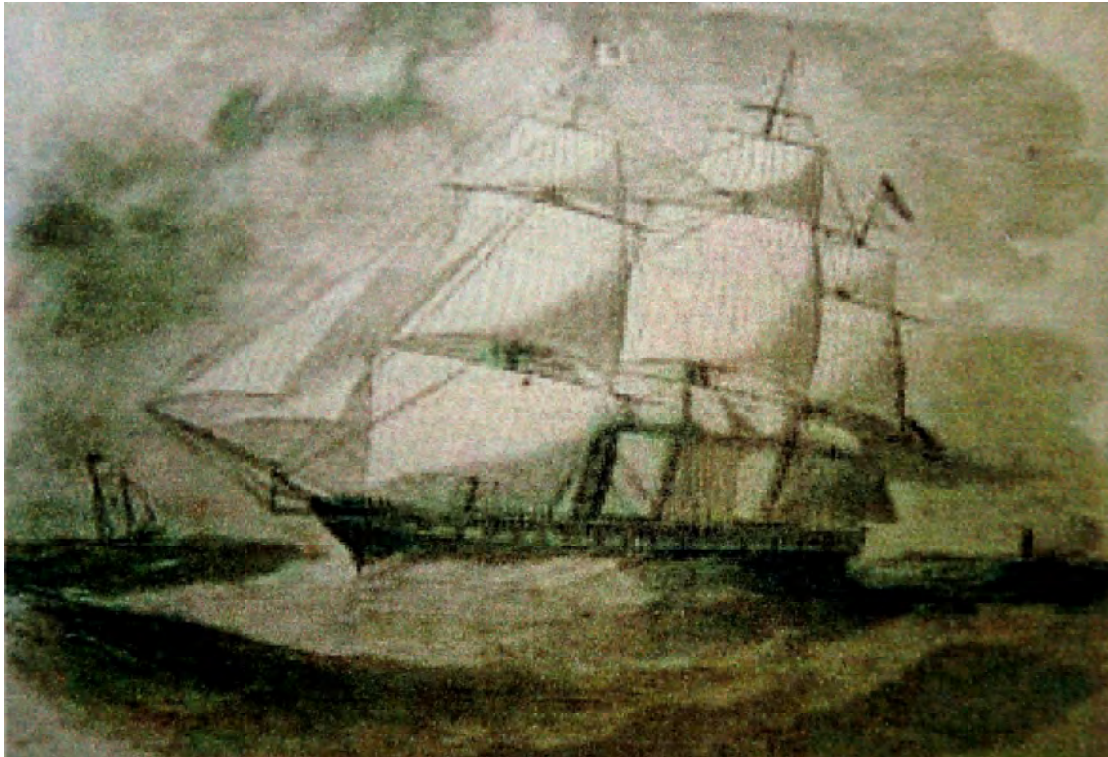
にほん しゅうかん
たしている。日本の習慣に
こうかい
はないことだから、航海士
ちゅうそう しかんよう
にかけあい、中層の士官用
こしつ か
の個室のトイレを一つ借り
にほんじんせんよう
て日本人専用にしました。

けんべいしせつ こうべい にちろく
(5 5) 遣米使節「航米日録」 (4)

けんべいしせつ しながわおき たいへいよう
遣米使節が、品川沖から太平洋をわたってサンフランシスコ～パナマまでポウハタン
ごう い けんべいしせつ べいかんさんせき の つ せかい しゅう
号で行ったことは知られていますが、遣米使節は「米艦三隻」を乗り継いで世界一周し
こと し こと お きしゃ たいせいようがわ
た事はあまり知られていません。パナマでポウハタン号を下りると、汽車で大西洋側
で じょうりく
に出「ロアノウク号」でアスペンウォール～ワシントンへ上陸しました。
きこく ほう
帰国は「ナイアガラ号」でニューヨーク～アフリカ～インド洋～インドネシア～香港
にほん
～日本のコースでした。

* ロアノウク号「ROANOKE」

ごう むか しせつこう
ロアノウク号に迎えらるる使節一行



(フランクレスリーイラスト しんぶん とうぜんじぞう 新聞 東善寺蔵)

(フランクレスリー・イラスト しんぶん とうぜんじぞう 新聞 東善寺蔵)

(5 6) 朝鮮通信使の船のトイレ事情

朝鮮通信使とは、1655年（明暦元年）以降、通信使の来聘（*1）の目的は新將軍の襲職（*2）の祝賀とされた。通信使とは信を通ずる使節という意味で、全般的な友好親善を目的とした使節でした。江戸時代には、百数十年の間に九回の通信使が派遣され、朝鮮との良好な関係が維持されてきました。*1：外国から外交使節が来朝して礼物を献ずること。*2：職務を受けること
 この絵は正史ト船（*3）に横付けしている小さな番船がある、そこに「此下の番船……、フンヲセリ」と書いてある。またこの絵をみると、上から黒い物が落ちて来ています。



雪隠
せっちん

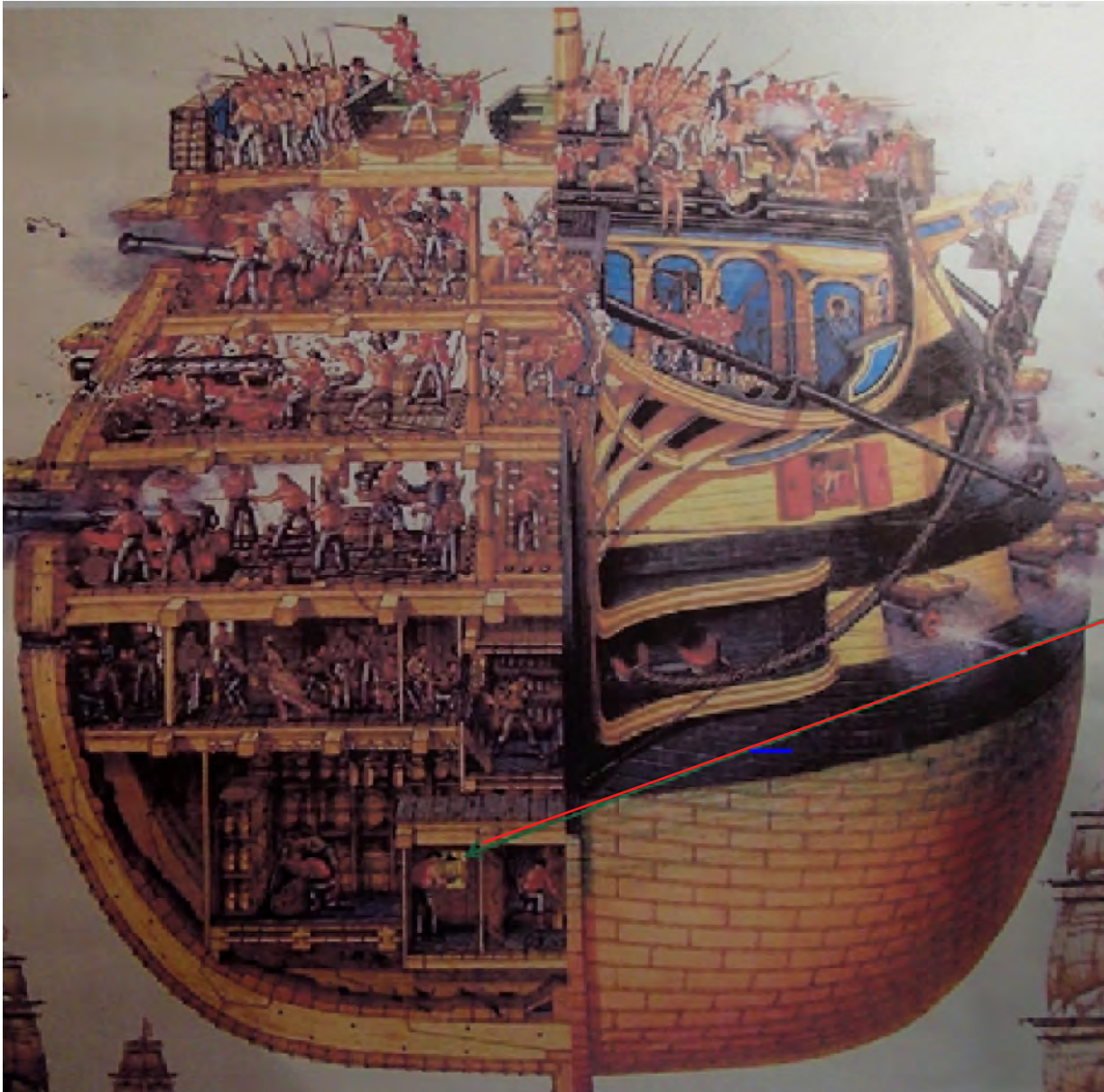
此所二而モフンオセリ
このところ しか

（*3）副使の船のこと
 船の先端には「正下」の旗があり、舳先の下に「雪隠」の字が見える
 通信使は総勢五百人程度
 の使節一行で、使節の中心は、正使・副使・従事官の三使が乗る騎船三艘、それにト船（貨物船）が一艘づつついて六艘でした。

参考文献：近世日本人は朝鮮をどう見ていたか
 著者 倉地克直著 角川書店

(5 7) 17世紀のヨーロッパの軍艦 (1)

イギリス海軍の帆走戦艦 「ヴィクトリー号」



ナポレオン戦争の一転機とな
った歴史的な海戦は1805年10
月21日スペイン南西岸・トラ
ファルガー岬の沖合で、ネルソ
ン提督率いるイギリス艦隊と
ビルーブ提督指揮するフラン
ス・スペイン連合艦隊との間
に戦われ、イギリスの大勝に
終わった海戦が「トラファルガ
ーの海戦」です。

ぐんかんべんじょ
軍艦の便所

「ヴィクトリー号の規模」

排水量：3,500トン

船体：木造

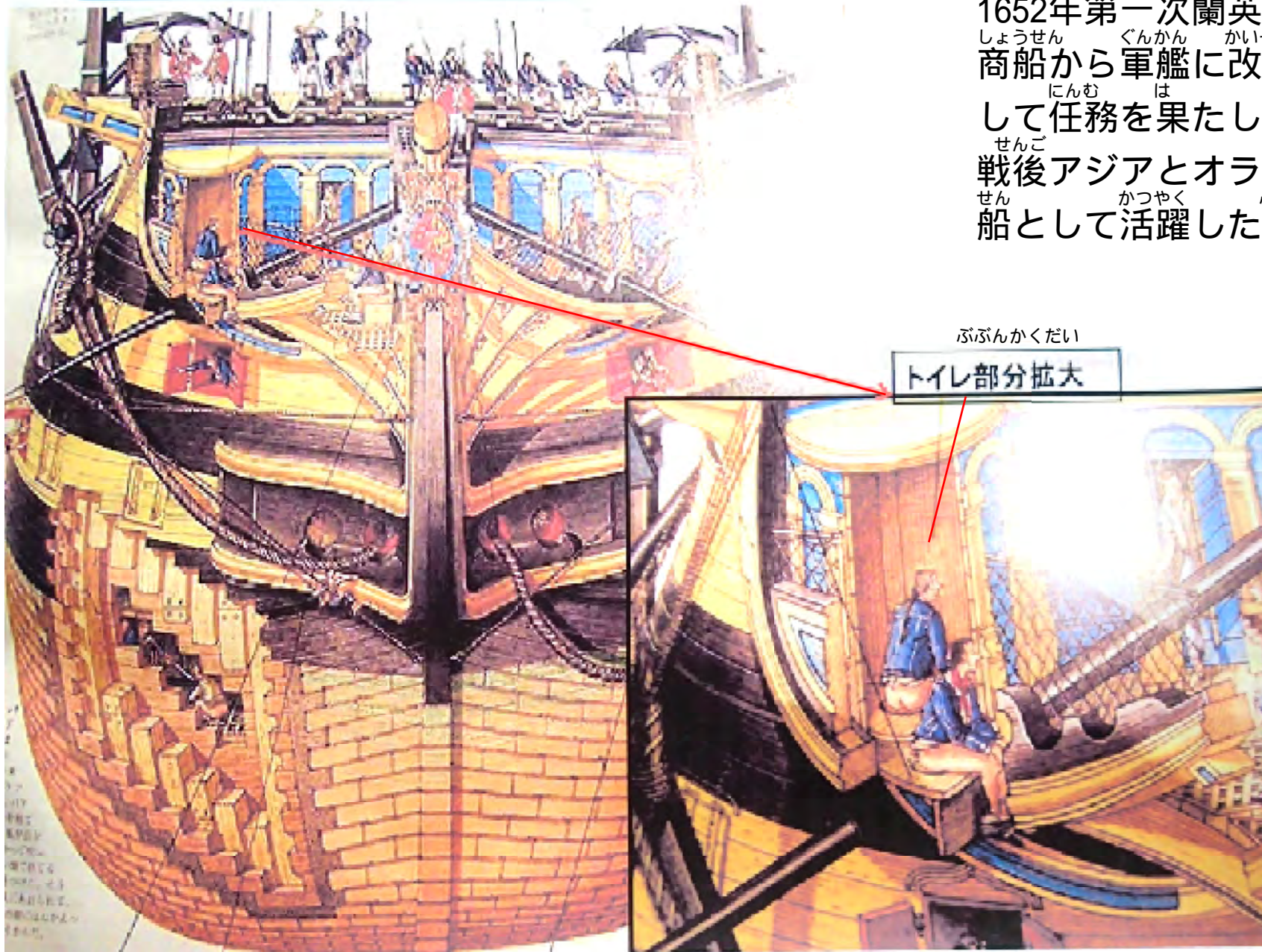
全長：226フィート (1 ft =
0.3048m) 約68m

帆走・乗員 850名

(5 8) 17世紀のヨーロッパの軍艦 (2)

プリンス・ウィレム 1651年オランダ

1652年第一次蘭英戦争勃発、武装
商船から軍艦に改造され、旗艦と
して任務を果たしました。
戦後アジアとオランダを結ぶ貿易
船として活躍した船です。

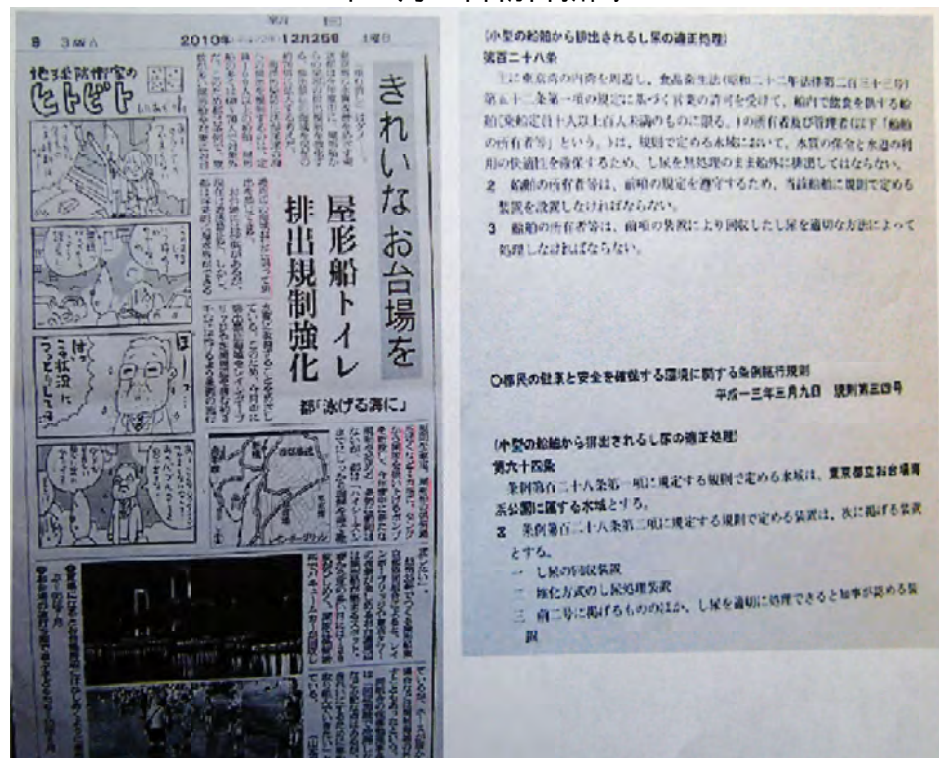


(59) 東京湾のトイレ規制「新屋形船」

現在東京湾内で活動している「屋形船」又は「納涼船」は新橋の高速道路の高架下に
 係留されています。屋形船の屎尿処理については、東京都条例215号（都民の健康
 安全を確保する環境に関する条例）に定められています。詳しくは、東京湾内を周游
 する船舶で、乗船者10人以上100人未満の屋形船で飲食を提供する船の屎尿は海中への
 排出は禁止され、屎尿は船内に貯留し、バキューム等で回収することになっています。

東京湾に係留されている「新屋形船」

2010年12月25日朝日新聞

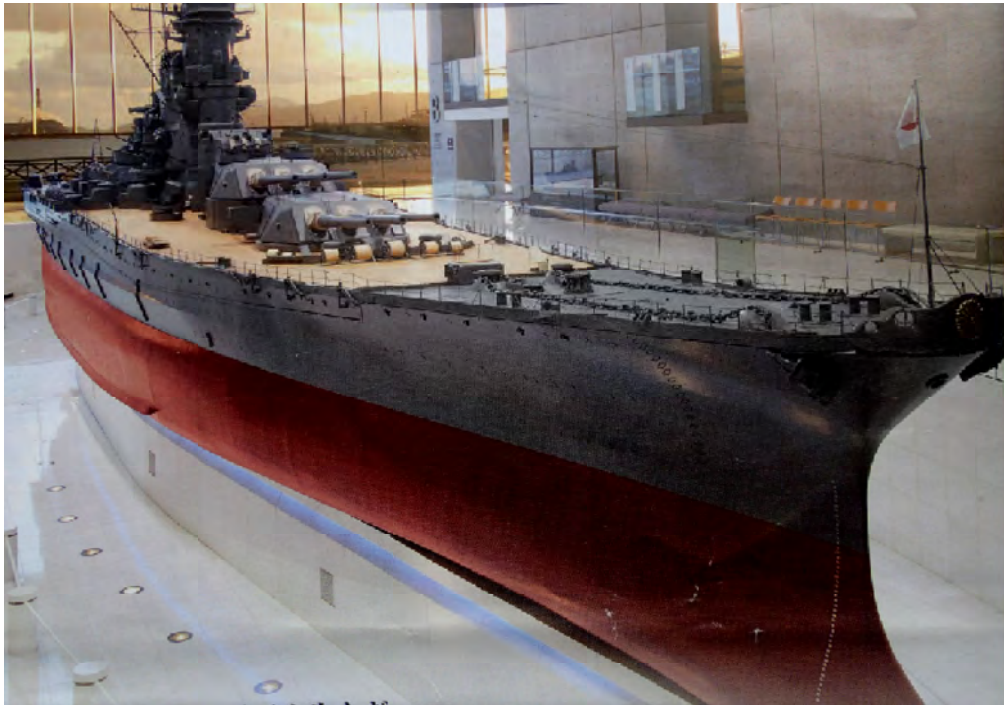


東京都は都立台場海浜公園周辺の水域を都民の泳げる海にするよう、周辺区域を
 設定し、湾内の水の浄化をはかり、泳げる海をめざして条例施行規則の改正をしました。

(60) 旧日本海軍戦艦のトイレ事情 (1)

1、日本の代表的戦艦「大和」におけるトイレの事情、日本の軍隊には士官と下士官、兵との間には高い壁があり、海軍は陸軍と比較して多少民主的であっても変わりはありません。戦艦のトイレ数について見ると、戦艦大和のトイレ数は謎の一つです。海軍はトイレとは言わず、「厠」といっていました。

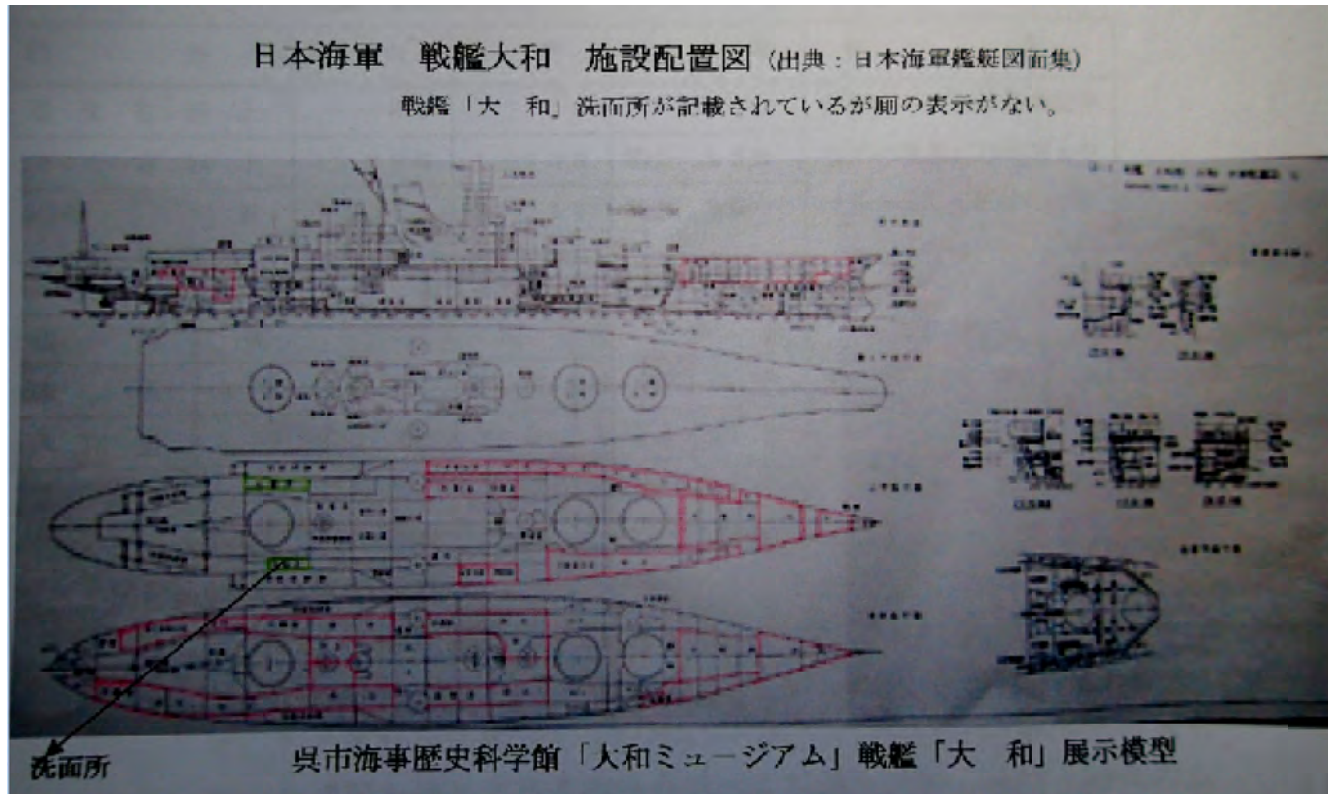
世界一の戦艦「大和」模型



兵員用トイレは、上甲板左舷後方に一つ、中甲板には准士官用が一つあります。通常艦内トイレは士官室厠、士官次室厠、准士官厠、兵員厠と数箇所に分かれています。大艦では多くの場合、兵員厠は左右両舷一つずつあり、それぞれ10個前後の便器が置かれていました。「大和」型では各甲板ごとに前部、中部、後部の三箇所がありました。

(6 1) 旧日本海軍の戦艦トイレ事情 (2)

旧日本海軍の巨大戦艦「大和」級につぐ、戦艦「長門」(39,000吨)の平時に
おける乗組員は1,400名トイレの大便秘器の数は23個、(長官、参謀長、艦長を除く)
組織の構成比は、士官1、下士官3、兵7の割合はどこの国の軍隊でもこの比率はほ
ぼ同じで、便器の数は、士官70名で11個、下士官兵1,330名に12個でした。
アメリカの戦艦「サウスダコタ」(35,000吨)のトイレの数は、乗組員1,800
名に対して50個で、単純に便器1個に対し比較すると、日本の戦艦は、61人アメ
リカの戦艦は36人で、「サウスダコタ」の乗員が楽であった事がわかります。



艦内便器の使用法が日本人にはわからないので、和式の要領で便座の上に乗る者、反対向きにしゃがみこんだりするものが大勢いました。日本人が洋式トイレを一般家庭で使うのは昭和30年代からでした。

注：図に赤色の枠が艦内のトイレの想定位置を標示したものです。

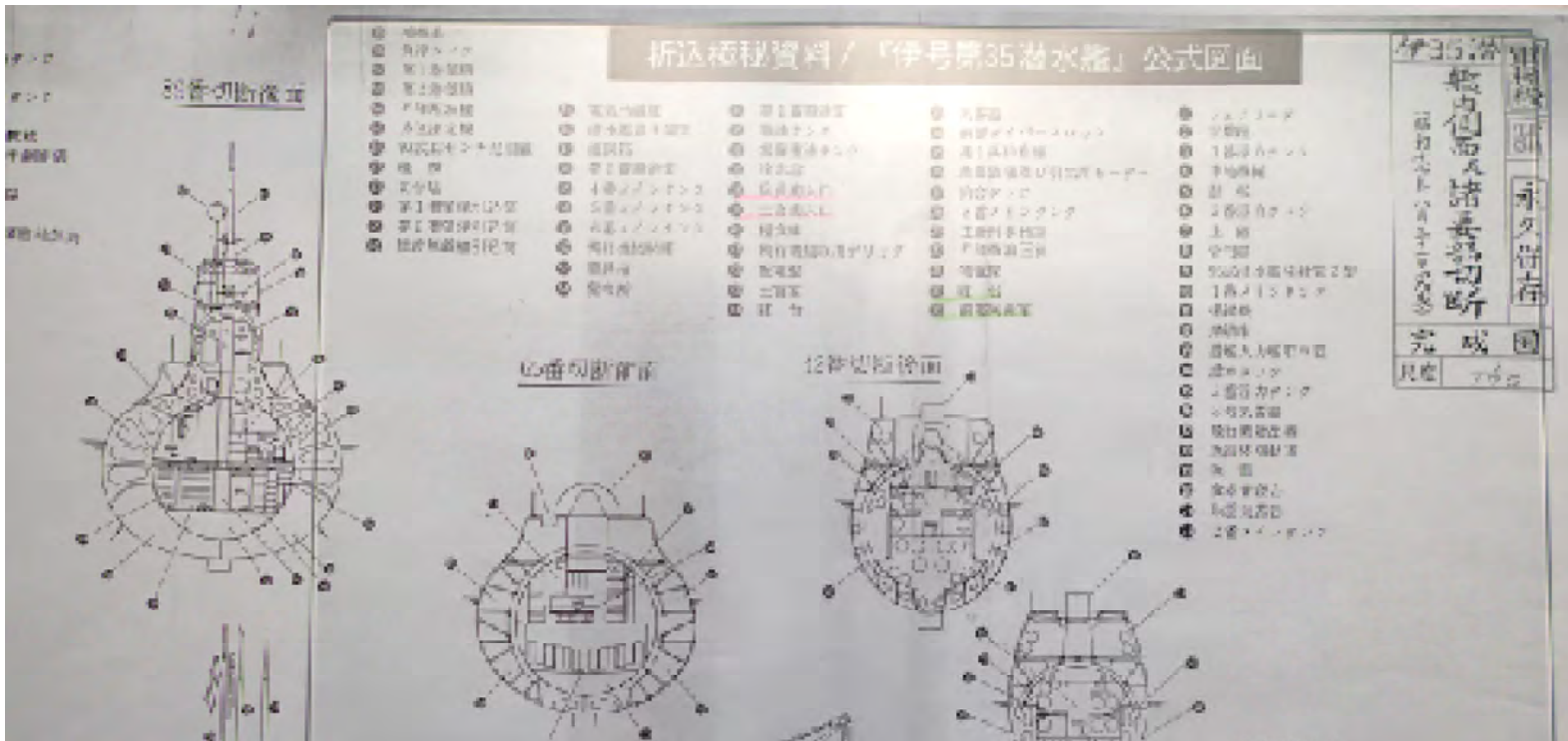
参考文献：日本海軍艦艇図面集 原書房

戦艦大和 設計と建造 アテネ書房

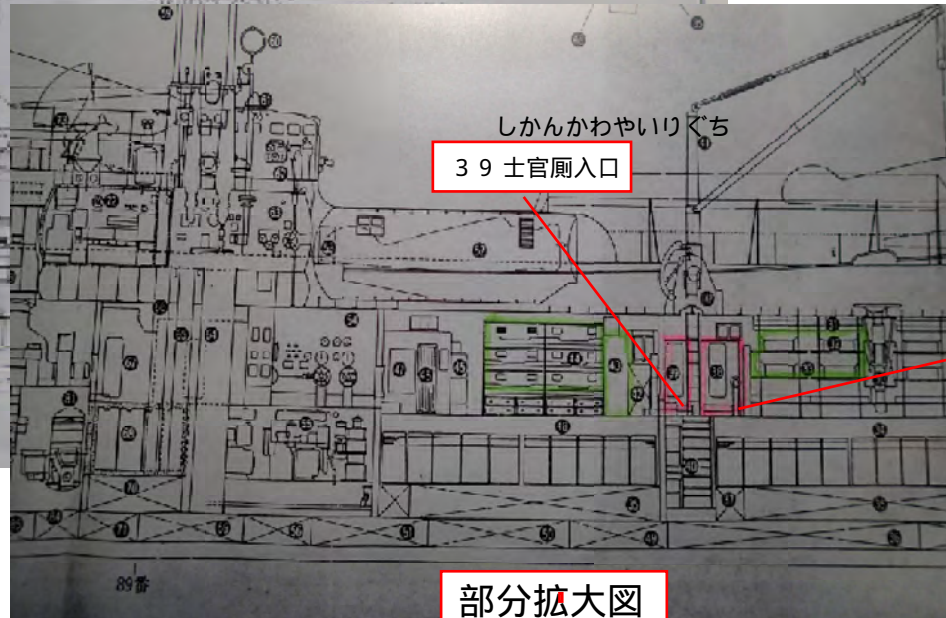
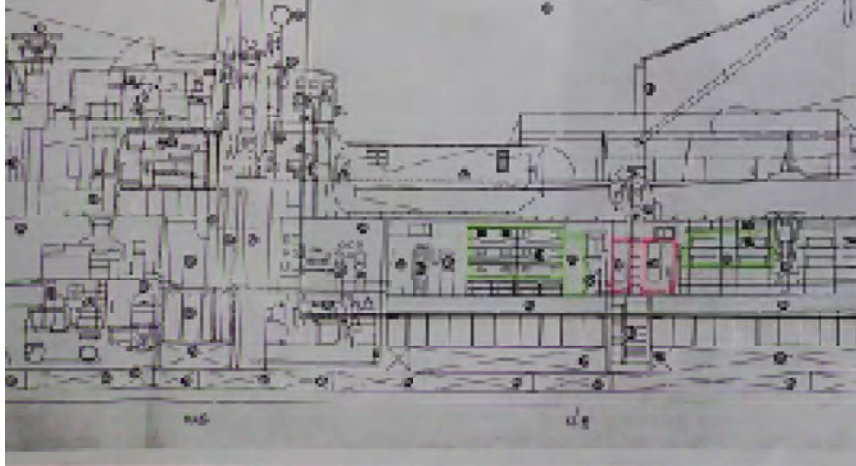
図解「日本軍の小失敗 三野正洋著 ワック株

戦艦「大和」の資料には全て廁は記載されていなく、洗面所のみ記載されています。

(62) 旧日本「伊号35潜水艦」のトイレ



日本の潜水艦のトイレの位置が明確に記されている公式図面は、あまり見られませんが防衛研究所の資料によると、昭和17年8月31日に完成し、軍事機密になっていた潜水艦の側面図です。



「伊号第35号潜水艦」完成図 永久保存版

参考資料出典：日本海軍艦艇図面集 原 書房

部分拡大図

(63) 戦艦「三笠」のトイレ事情 (1)

明治35年(1902)イギリスのヴィッカーズ造船所で建造されました。日露戦争における日本海海戦ではロシアのバルチック艦隊を対馬沖で迎え撃ち、連合艦隊の旗艦として圧倒的な勝利に貢献しました。昭和36年復元され、横須賀港に記念艦「三笠」として保存されています。

戦艦「三笠」要目

全長：122m 幅：22m 排水量：15,140トン

当時の「三笠」の厠絵図



イギリスやアメリカ海軍の艦船の便所は、昔艦首にあったので「head」と呼び、日本の海軍では厠と呼び、便所掃除をする人を「厠番」と呼んだ。戦艦「三笠」はイギリスの造船所で建造されたので、トイレや浴室はすべて洋式で、兵員厠の絵は三笠の当時乗組員の島野氏が書かれた。汚物は便座下の排水管から貯留タンクに集める方式です。

(64) 戦艦「三笠」のトイレ事情 (2)

戦艦「三笠」は明治36年(1903)12月第一艦隊及び第二艦隊をもって連合艦隊が編成され、連合艦隊司令長官に東郷平八郎中将が任命されました。

ちょうかんせんようせんめんだい
長官専用洗面台

ちょうかんせんようよくしつ
長官専用・浴室・トイレ



左図の洗面台は戦艦「三笠」が建造された当時、艦内に備え付けられた英国製の洗面台で鏡の後ろが給水タンクとなっており、排水は下部の貯水タンクに溜めて処理するようになっています。

(65) 戦艦「三笠」のトイレ事情 (3)

戦艦「三笠」分割図三分之二

戦艦「三笠」分割詳細図三分之一

しかんようせんめんよくしつ ちょうかんしつ

79 士官用 洗面浴室

78 長官室

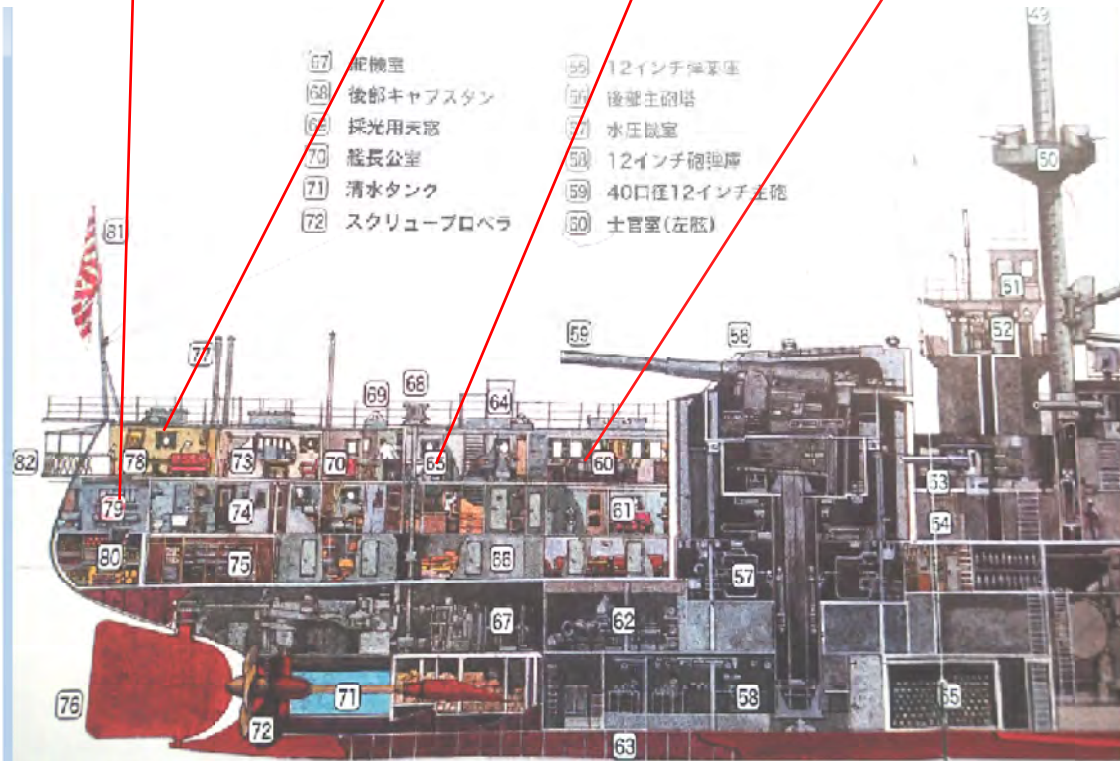
かんちょうしつ

65 艦長室

しかんしつ

60 士官室

- 67 舵機室
- 68 後部キャブスタン
- 69 採光用天窗
- 70 艦長公室
- 71 清水タンク
- 72 スクリュープロペラ
- 55 12インチ弾薬庫
- 56 後部主砲塔
- 57 水圧試室
- 58 12インチ砲弾庫
- 59 40口径12インチ主砲
- 60 士官室(左舷)



へいいんてあらいしよ
28 兵員用手洗所

(6 6) 日本の代表的な連絡船 (1)

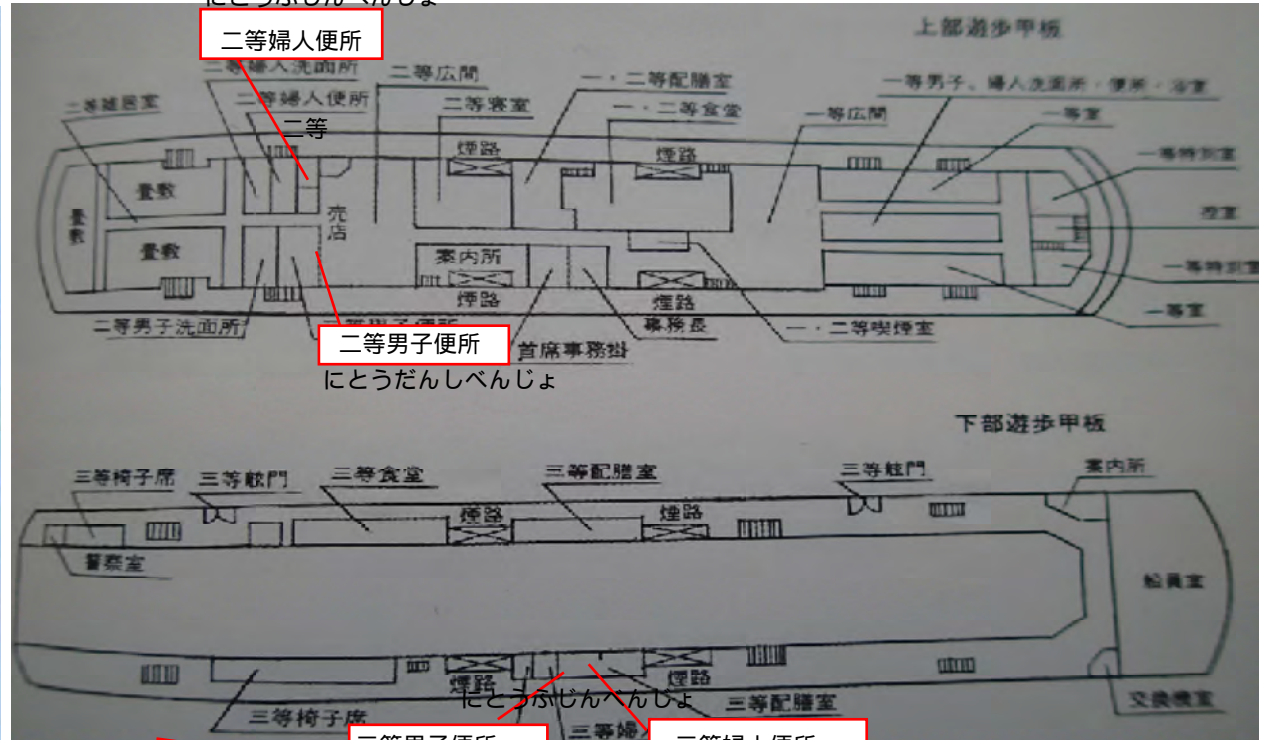
旧国鉄所有 青函連絡船

北海道開拓事業が本格化した、1900年代初め、北海道鉄道と日本鉄道は一日二往復の直通列車を走らせていたが、函館～青森間の連絡船は1日1往復で港で積み残した荷物や人々が夜を明かす姿が目立ち、これを解決するために生まれたのが、青函連絡船で、本州と北海道の架け橋として歩んだ。青森～函館間の津軽海峡、113kmを結ぶ航路として人と貨物を運んだ。洋蹄丸 は昭和40年（1965）8月5日青函航路に就航し昭和63年（1988）

3月13日青函連絡船最後の上り旅客便としての役目を果たし終航しました。

青森港を最後に出る洋蹄丸

洞爺丸客室配置図

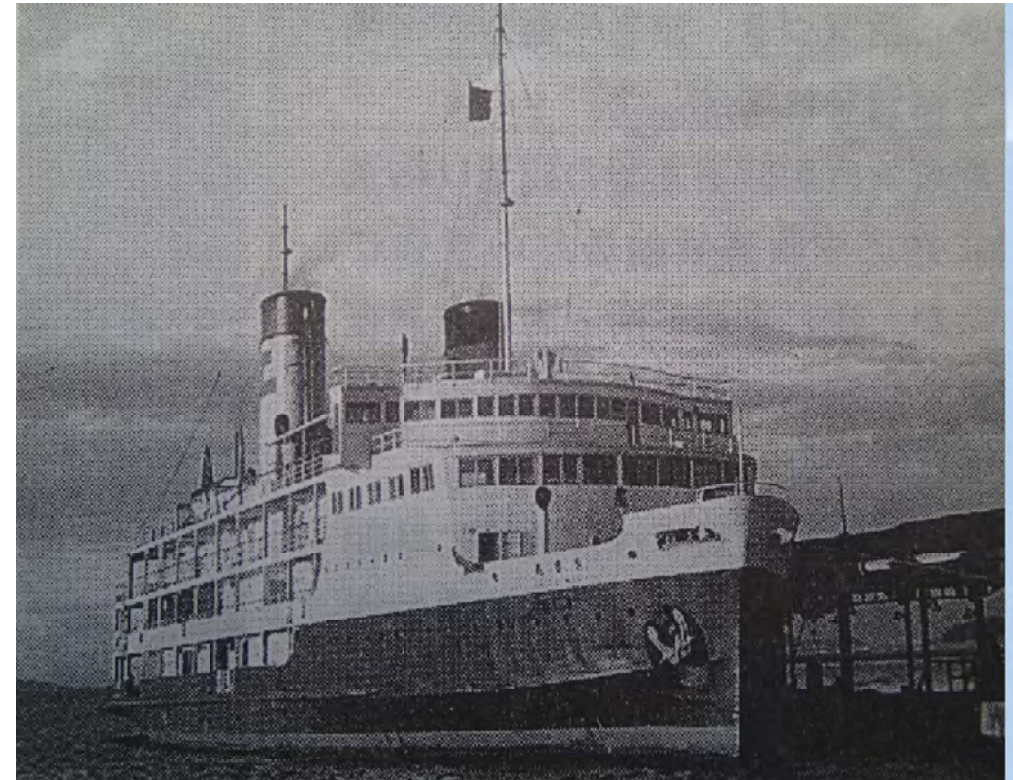
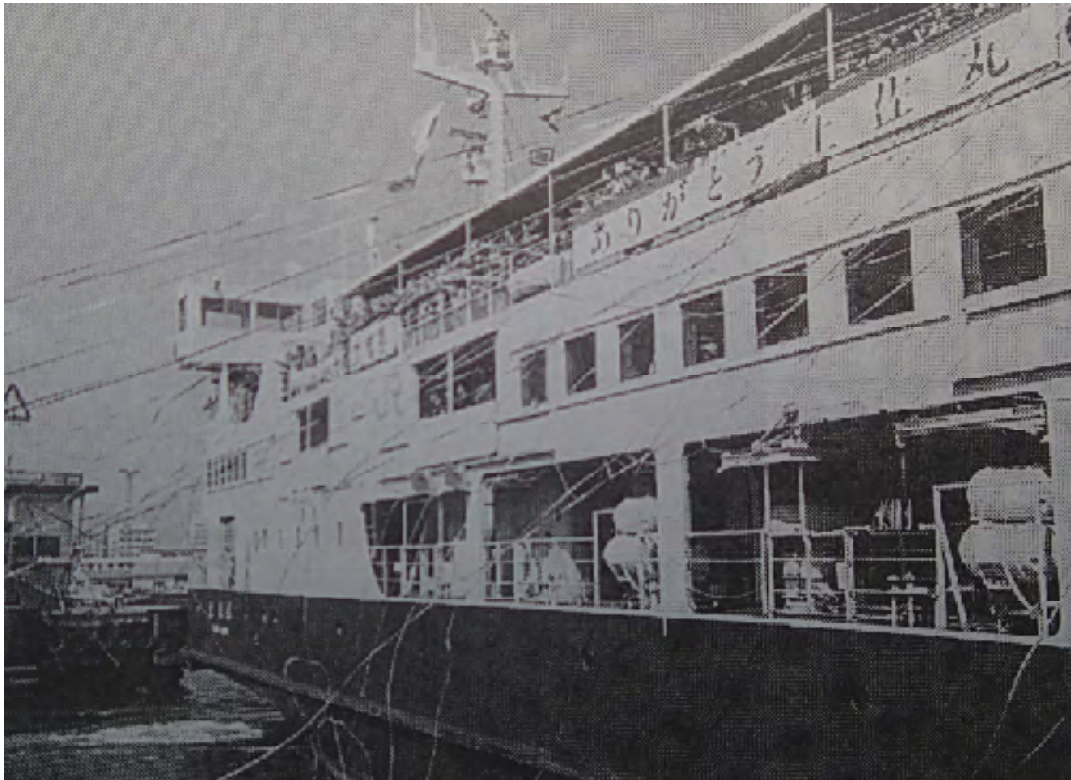


(6 7) 国鉄の連絡船屎尿処理経過 (2)

旧国鉄連絡船の屎尿処理については、昭和49年(1974)から各連絡船で稼働していた
燃焼式屎尿処理装置(各船3台)の補助的役割を果たす、**粉碎式屎尿処理装置**を昭和5
2年(1977)から設置されました。これは航海中に親装置が故障した時、又は多客シーズ
ンに処理能力(1日66トン)をオーバーした時、屎尿を粉碎し**海中へ投棄する**仕組み
になっていました。昭和49年6月から「**海洋汚染防止法**」が適用され、全連絡船に「燃
焼式」と「粉碎式」が設置されました。

宇高連絡船終航

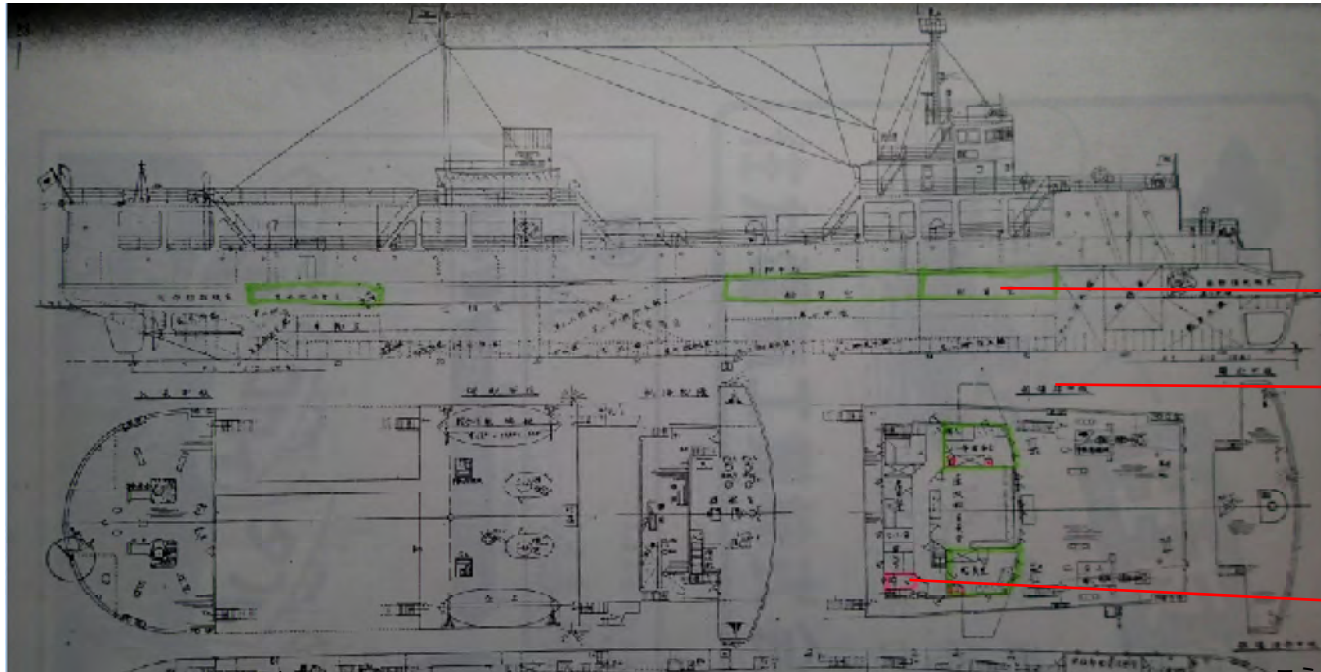
宇高連絡船「紫雲丸」



(68) 国鉄連絡船のトイレ配置 (3)

日本国有鉄道 第三宇高丸 一般配置図

「宇高連絡船」



船員室

船橋楼甲板

船長トイレ

第三宇高丸について
本船は、宇野～高松間の貨物運送の為に導入され、同航路には、紫雲丸、他五隻が就航しています。

全長76.30m幅14.5m

車両搭載数 22両

航海速力 12.5節。*1

最大搭載人員、士官1

3人、属員36人、その他32人、合計81人

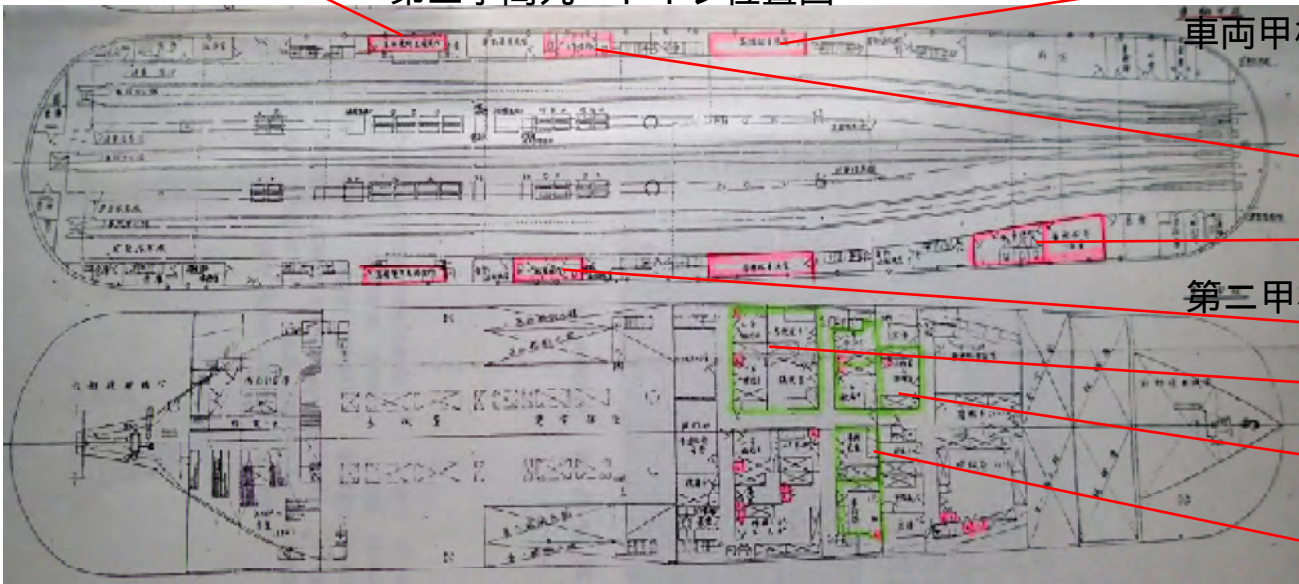
他32人、合計81人

*1：船の速力の単位（ノットにおなじ）
1ノット=0.5144m/s

客室便所及洗面所

第三宇高丸 トイレ位置図

高級船員浴室



車両甲板

第三甲板

士官便所

船員便所

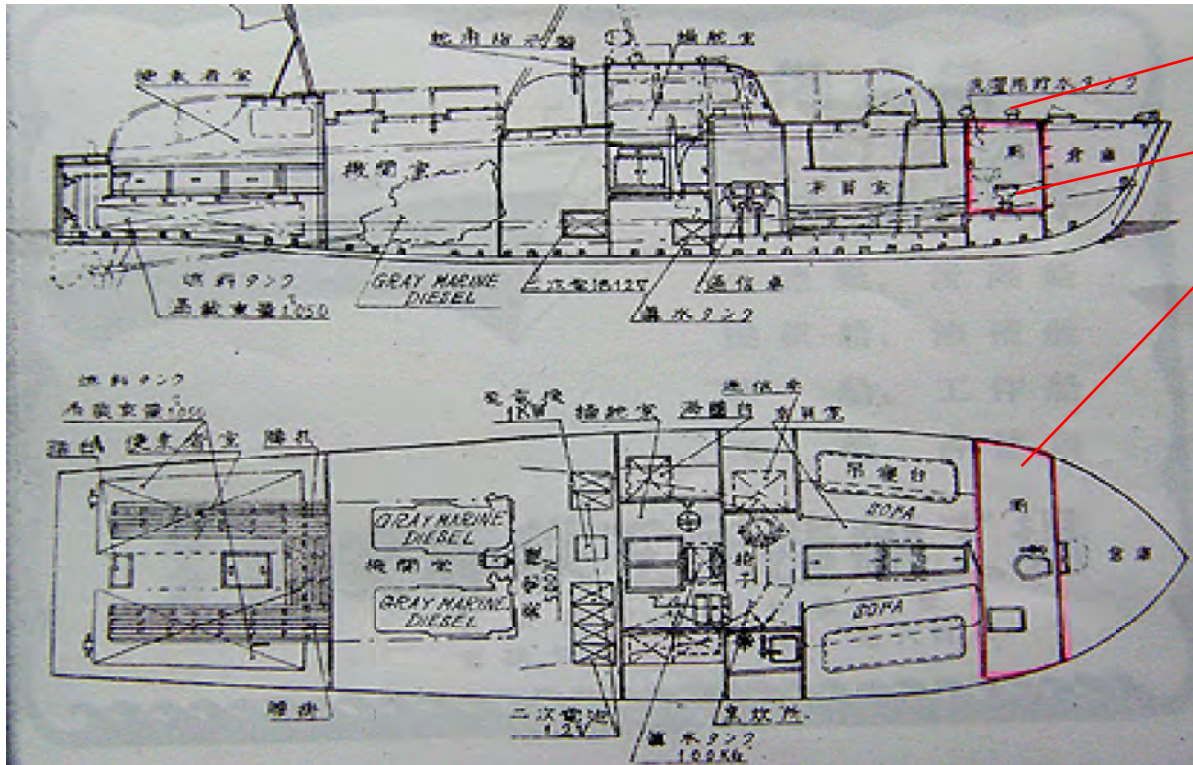
船員便所

機関長・機関士

三等・二等航海士事務長

(69) 海上保安庁船舶のトイレ

(1) 15m内火艇の乗員廁



*15米内火艇要目
メートルないかていようもく
ぜんちょう やく 全長 約15.00m さいだいはば 最大幅 4.20m はいすいりょう 排水量13.500
そくりよく 速力 15ノット

じょうぶせんたくようちよすい

上部洗濯用貯水タンク

じょういんかわや

乗員の廁

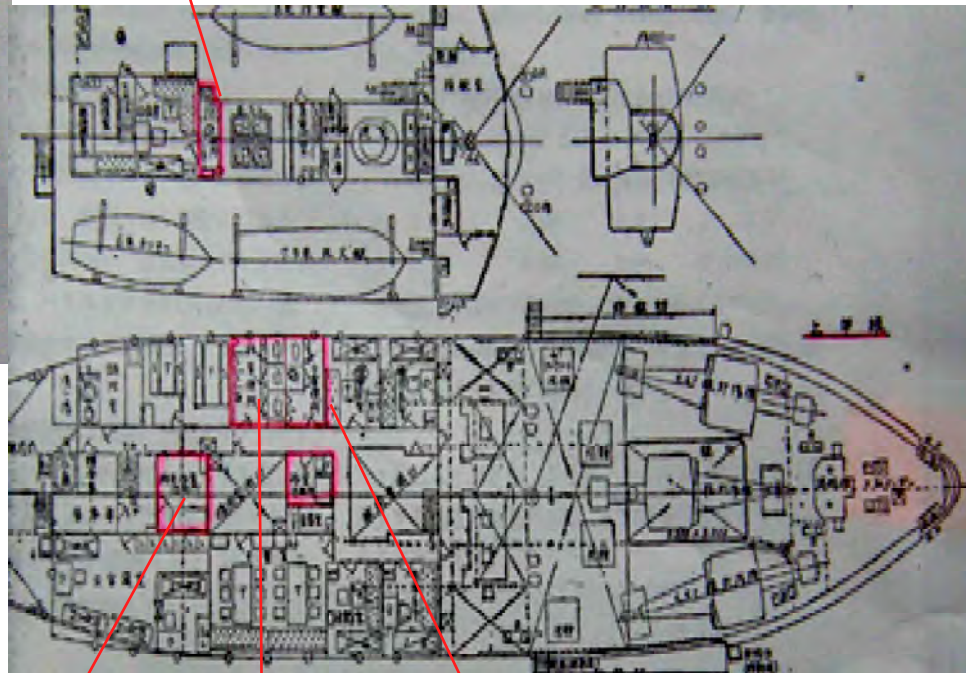
べんじょ

便所・シャワー

せつひょうせん

(2) 設標船「ほくと」

「ほくと」は、せつひょうさぎょう 設標作業を
もくてき 目的とする船としては本邦
はつ 初の船です。



かいんよくしつ

科員浴室・洗面所

せんめんじょ

科員便所

かいんべんじょ

士官便所

しかんべんじょ

じょうかんばん

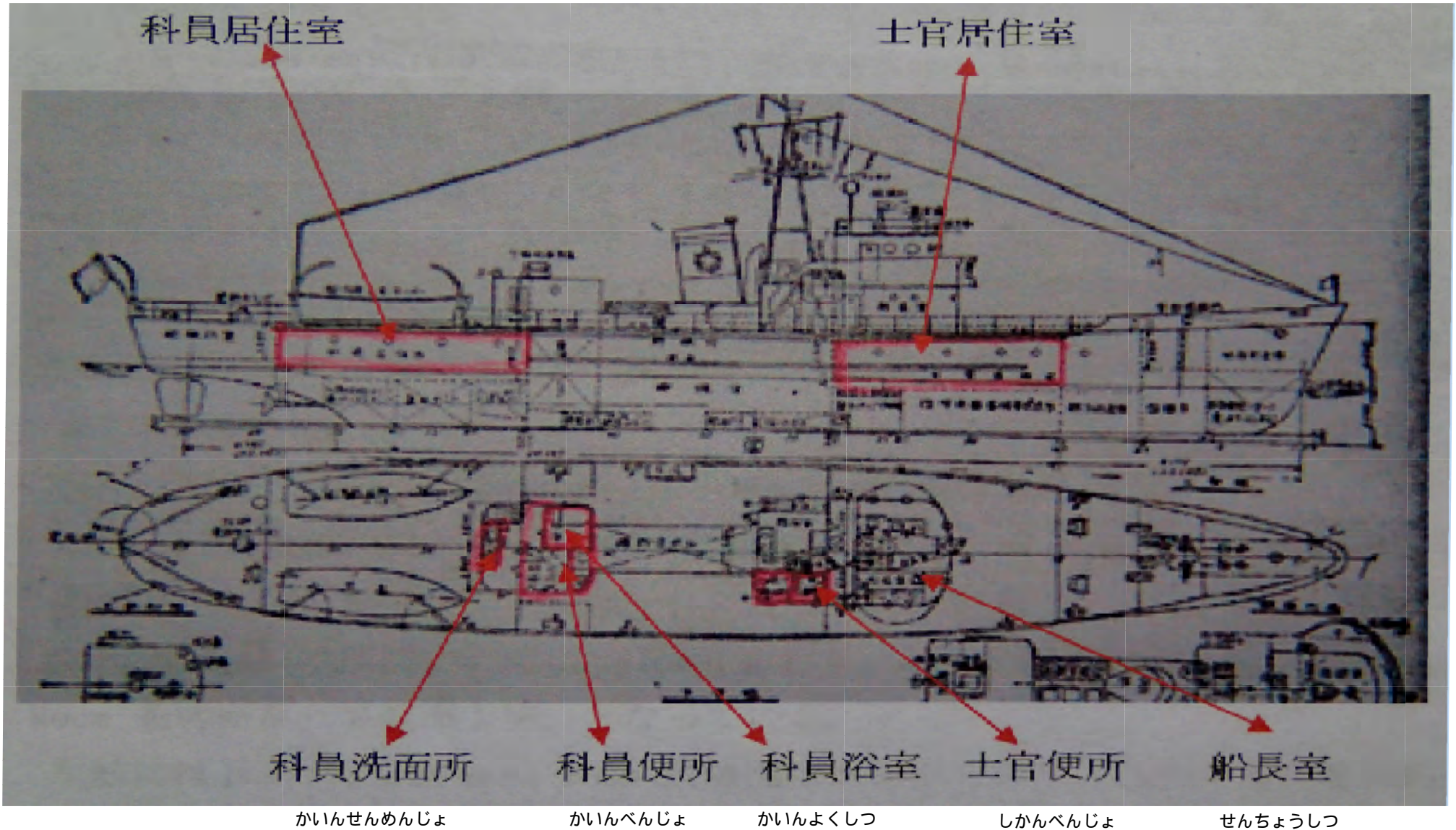
上甲板

(70) 海上保安庁270トン型巡視艇

日本の敗戦の結果各方面で混乱が発生し、海上においても航路標識施設は荒廃し、日本周辺に敷設された機雷は6万個といわれ、沈没した船舶は、1,000隻を数え、さらに海上の取締の手薄に乗ずる密貿易、密漁、海賊の犯罪が多数横行しました。

かいんきょじゅうしつ

しかんきょじゅうしつ



(71) 不審船 (工作船) のトイレ

海上保安庁は九州南西海域で、不審船の情報を入手し巡視船「いなさ」が追跡を開始しました。

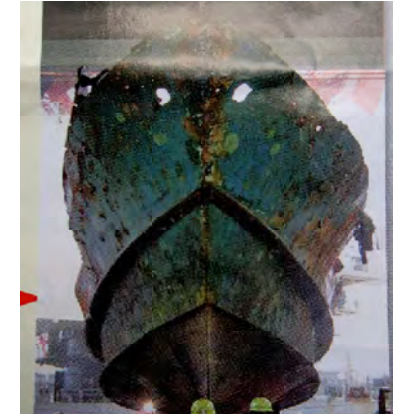
追跡する巡視船「いなさ」



不審船



回収された船体



巡視船「いなさ」に対して攻撃してきたので、攻撃により巡視船の乗組員三名が負傷したので正当防衛射撃をおこなった、その直後不審船は爆発を起こし急激に沈没しました。

海底から引き揚げた船からトイレと思われる箇所がみられ上甲板から船底に配管された排水管で排出されていました。

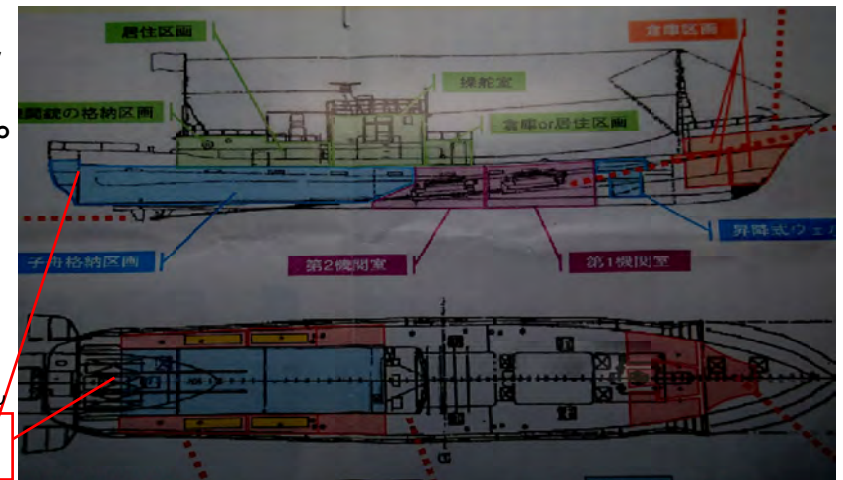
船側からの排水管



艙の上甲板からの縦排水管



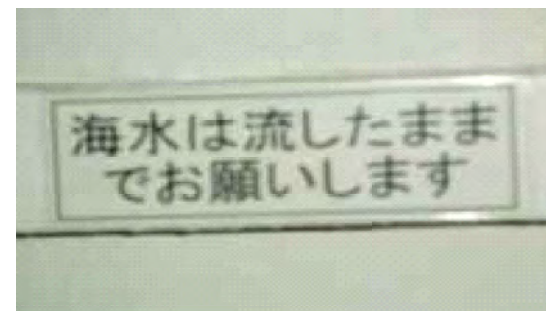
不審船
便所位置
べんじょいち



(72) 海上自衛隊の艦船 (1)

ミサイル護衛艦「はたかぜ」の一般図によると、司令と艦長は専用のバス・トイレがあり、士官用に二ヶ所、自衛官用に三ヶ所、「はたかぜ」は乗員250人で「戦艦大和」の十分の一ですので、人数比では50ヶ所くらい「戦艦大和」にはトイレがあったと考えられます。

海上自衛隊護衛艦 「左あぶくま」 「右さわぎり」



艦内男子便器



(73) 海上自衛隊砕氷艦「しらせ」

南極観測隊の物資や人員を南極の日本基地まで輸送するためには南極海の氷の海を航海しなければなりません。海上自衛隊の砕氷艦「しらせ」の尿尿の処理システムは下図に示されている方式が採用されています。海上自衛隊が公表したもので、この方式は潜水艦を除く海上自衛隊のすべての艦に採用されています。

ひょうかいじょうかいじょうじえいたいしん
氷海上の海上自衛隊「新しらせ」



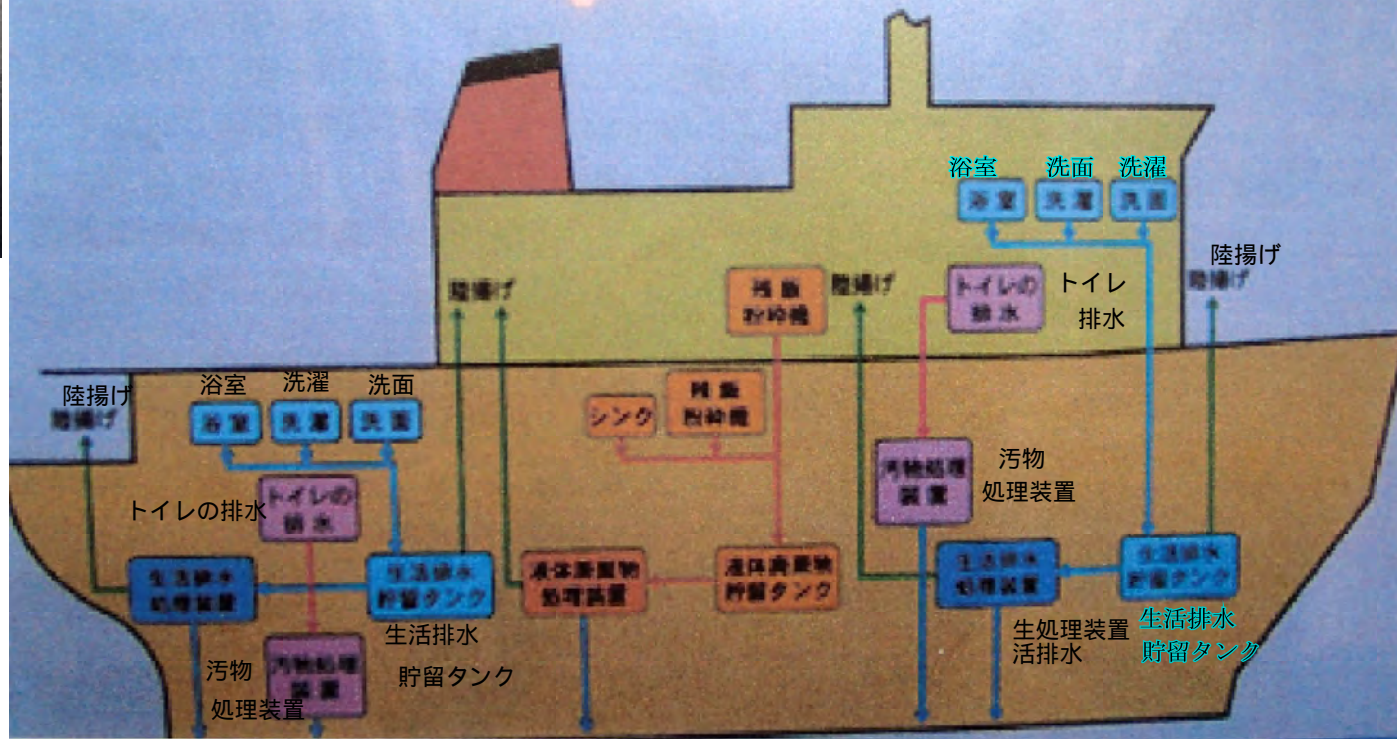
にゅうこうじかいじょうじえいたい
入港時の海上自衛隊「しらせ」



はい き ぶつ しょ り

廃棄物処理システム

液状廃棄物は、バクテリアで分解して無害となったものだけを海中投棄又は陸揚げ
固形廃棄物（缶、ビン、プラスチック、等）は、艦内に保管し、陸揚げ



かいじょうじえいたい くれ しりょうかん
(7 4) 海上自衛隊呉資料館 (1)

せんすいかん
潜水艦「あきしお」SUBMARINE

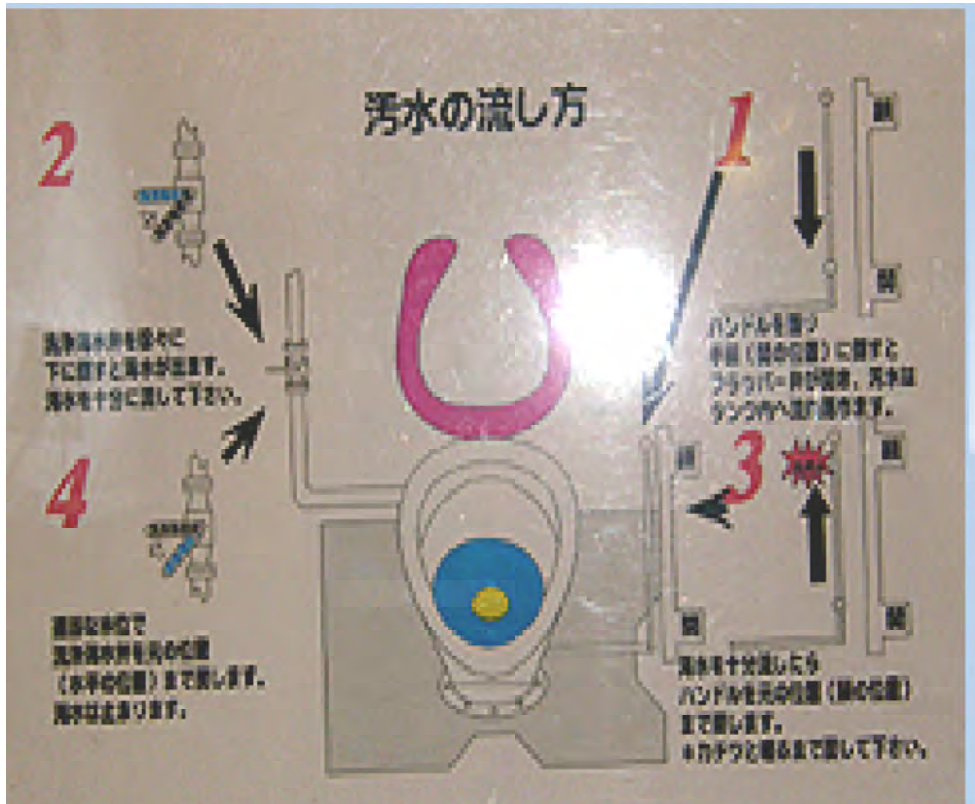
だいにじ たいせんちゅう すぐ せんぼうきょう ぎょらいはっしゃかんせいぎよばんそうび かつやく べいこく せん
第二次大戦中、優れたレーダー、潜望鏡、魚雷発射管制盤を装備して活躍した米国の潜
すいかんかんめい しょうわ ねん な か にほん き にほん
水艦で艦名「ミンゴ」は昭和30年「くろしお」と名を変えて日本に来ました。日本で
かいじょうじえいたい きそくんれん たいせんもくひょうくんれんなど はたら にほん せんすいかんぶたい はつ
は海上自衛隊の基礎訓練のために、対潜目標訓練等として働き、日本の潜水艦部隊の発
たつ は こうせき たいへん おお にっぽん しょうわ ねん
達に果たした功績は大変大きいものがあります。日本では昭和60年「あきしお」とし
しんすい へいせい ねん がつにんむ しゅうりょう ねん がつくれしりょうかん てんじ
て進水し、平成16年3月任務を終了し18年9月呉資料館に展示されました。



かいじょうじえいたいくれしりょうかん かん てんじ せんすいかん
海上自衛隊呉資料館（てつのくじら館）に展示されている潜水艦「あきしお」のトイレ
すいじょうかん おな べんき こうくうき しんかんせん おな
は水上艦と同じ便器はステンレスで、航空機や新幹線のトイレと同じです。

(7 5) 海上自衛隊呉資料館 (2)

潜水艦「あきしお」のトイレの使い方



汚水の流しかた

「洗浄海水弁」役目

1. ハンドルを握り、手前に倒すとフラッパーが倒れ、汚水はタンク流れる。
2. 洗浄海水弁を徐々に下に倒すと海水が出る（十分に流す）

3. 海水を十分流したら、ハンドルを元の位置まで戻す（カチッと音がするまで）
4. 適当な水位で洗浄海水弁を元の位置へ（海水は上がる）

便座の左側に洗浄海水弁で、この大きなハンドル（フラッパー弁）海水弁のコック

かいじょうじえいたい くれ しりょうかん
 (76) 海上自衛隊呉資料館 (3)

せんすいかん せいじん 75名 うちわけ かんぶ 5名 かいそうし 70名
 潜水艦「あきしお」 定員75名 内訳 幹部 5名 海曹士 70名

そうすう かしょ うちわけ かんぶよう かしょ じょういんよう かしょ
 トイレ：総数 2箇所 内訳 幹部用 1箇所 乗員用 1箇所

べんきすう そうすう こ うちわけ だいべんき こ しょうべんき こ
 便器数：総数 6個 内訳 大便器 5個 小便器 1個



かんぶようだいべんき
 幹部用大便器



じょういんようだいべんき
 乗員用大便器



かんぶようせんめんじょ
 幹部用洗面所

おぶつ はいしゆつ すいちゅう ふじょう あつりょく すいちゅう ほうしゆつ
 汚物の排出：水中30メートルまで浮上し、圧力ポンプで水中に放出します。

ごうか きゃくせん ひかわまる
(7 7) 豪華客船「氷川丸」のトイレ (1)

ひかわまる しょうわ ねん がつ にち む しょうじょこうかい と しょうわ ねん がつ
氷川丸は昭和5年5月13日シアトルに向けて処女航海の途につきました。昭和16年8月シアトル
こうろ きゅうし しょうわ ねん がつ かいぐん びょういんせん ちょうよう ご ねんかんなんぼう かつやく しゅうせんご
航路は休止、昭和16年11月に海軍に病院船として徴用、その後5年間南方で活躍、終戦後は
ふくいん ひきあげしゃ ゆそう じんりょく しょうわ ねんひかわまる ふたた かきゃくせん すがた とり もど たいへいよう おうだん
復員・引揚者輸送に尽力し、昭和28年氷川丸は再び貨客船として姿を取り戻し、太平洋を横断
ゆいつ ほんかくきゃくせん こうろ ふっき りゅうがくせいなどにちべい わか がくせい ほか
する唯一の本格客船としてシアトル航路に復帰、フルブライト留学生等日米の若い学生その他、
じょうきゃくたさい きわ しょうわ ねん さいご こうろ てったい いんたい
乗客は多彩を極めたが、昭和35年を最後に航路を撤退、引退しました。

せんないよくじょう てあらい いりぐち
船内「浴場」「お手洗」入口



よこはまし してい ゆうけいぶんかざい してい ひかわまる
横浜市指定有形文化財に指定された「氷川丸」

ごうか きやくせん ひかわまる
(78) 豪華客船「氷川丸」のトイレ(2)

しょうわねん けんぞう ひかわまる そうしょく とうじ りゅうこう さいせんたん
昭和5年(1930)に建造された「氷川丸」の装飾は当時流行の最先端であるアール
・デコ様式が採用され、その設計とインテリア材料はフランスのマークシモン商会が担
当しました。
じょせいやうおてあらい しょうかい たん
女性用御手洗 男性便所



じょせいべんき
女性便器



ごうかきやくせん ひかわまる
(79) 豪華客船「氷川丸」のトイレ (3)

せんちょうせんよう
船長専用

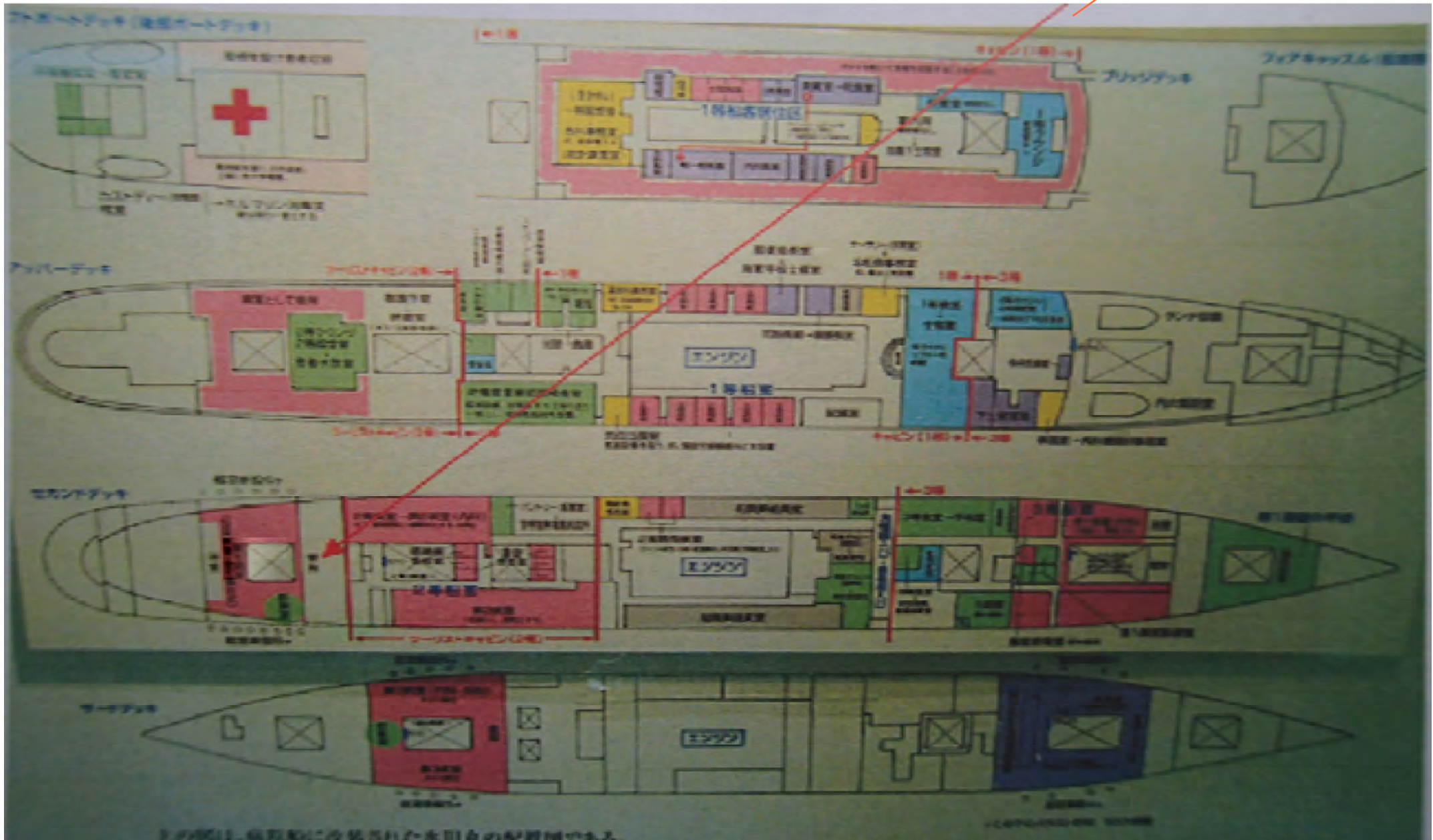
てあら よくそう
「お手洗い」 「浴槽」

だんせい べんき
男性 便器



ごうかきやくせん ひかわまる
(8 0) 豪華客船「氷川丸」のトイレ
 びょういんせん かいそう ひかわまる はいちず
 下図は病院船に改装された「氷川丸」の配置図です

(4)
 べんじょいち
便所位置



おわりに「元船員さん、船のトイレ経験談」

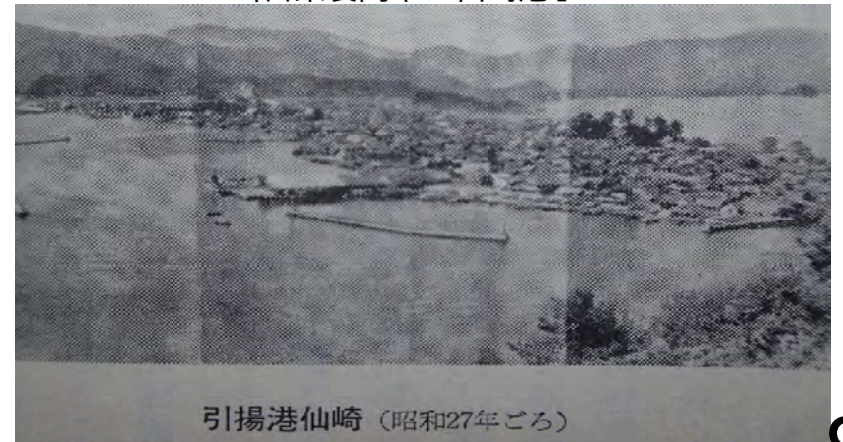
四方を海に囲まれた日本において、有史以来船は日本人の生活に欠く事のできない大切な道具（船）であり、江戸時代には多くの和船が造られ、明治の中頃まで千石船の名称で物流事業の中心的な役割を果たしていました。明治以降西洋の造船技術を取り入れ、さらに操船技術と気象観測の発達、港湾の整備により、世界の海運王国となりました。しかし第二次世界大戦で、日本の商船や艦船は壊滅的な打撃を受け、昭和二十年（1945）の八月の終戦と同時に日本本土は海外からの帰国者を輸送する船が皆無の状況でした。港は空爆で破壊され、日本海沿岸での使用可能な港は、舞鶴港と仙崎港のみでした。大陸からの引揚者は戦前の老朽貨物船を急遽客船として改造し、多くの引き上げ者の乗船は船内の便所設備の不足で、船端から糞尿を排泄する状況で、大部分の船の船端は糞尿で黒く染まって入港しました。

ひきあげせんこうあんまる
引揚船「興安丸」7、000トン



写真提供：山口県長門市 長門市史 歴史編 所蔵

やまぐちけんながとしせんざきこう
山口県長門市「仙崎港」



話題提供：山口市在住 大田 誠さん